愛知県美術館年報

目次

収集・保存・管理 …… 4

収集 …… 4

収集方針 …… 4

収集委員会 …… 4

収集の状況 …… 4

新収蔵作品 …… 5

寄託 …… 6

美術品等取得基金について …… 6

保存 …… 7

保存事業の実施状況 …… 7

管理 …… 8

作品の管理 …… 8

作品の貸出 …… 8

展示・教育普及 …… 9

所蔵作品展 …… 9

展示の概要 …… 9

所蔵作品展の開催状況と入場者数 …… 9

所蔵作品展　展示作品リスト …… 10

テーマ展（小企画展） …… 23

移動美術館 …… 24

企画展 …… 26

企画展一覧 …… 26

企画展の開催状況 …… 28

教育普及 …… 36

出版・発行 …… 36

講演会等 …… 39

学芸員による展示説明会（ギャラリートーク） …… 40

各種プログラム …… 42

友の会活動への運営協力 …… 44

調査研究 …… 46

美術館活動に則した調査研究 …… 46

その他 …… 46

組織および職員構成 …… 47

関係委員会名簿 …… 48

収集・保存・管理

収集

収集方針

・20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解する上で役立つ作品
・現在を刻印するにふさわしい作品
・愛知県としての位置をふまえた特色あるコレクションを形成する作品
・上述の作品・作家を理解する上で役立つ資料

収集委員会（※委員会名簿は48頁）

開催日
・第１回　2005（平成17）年12月１日
・第２回　2006（平成18）年３月28日
（ただし、作品の収蔵は平成18年度）

収集の状況

・上記の収集方針にそって19点の作品を購入し、10点の作品の寄贈を受けた。

美術品等収集状況

種　別	購　入		寄　贈
	点　数	金額(円)	点　数
日本画	0	0	3
洋　画	6	4,200,000	6
立　体	4	8,694,000	0
版　画	0	0	1
水彩・素描	9	2,835,000	0
計	19	税込 15,729,000	10

新収蔵作品

愛知県美術館では、コレクションの充実をはかるべく継続して収集を続けている。1988年の美術品等取得基金の設置以来、コレクションの充実に努め、2005（平成17）年度は、愛知県美術館において企画展で展示したことのある作家、またより新しい世代の現存の作家の作品19点を購入したほか、竹田大助氏、中澤英明氏、小島哲爾氏、新見吉和氏、新見永治氏より寄贈を受けた。

収集作品一覧

購入作品

	種別	作家名	作品名	制作年	技法、材質	寸法(cm)
1	洋画	竹田大助	牧神の朝	1953年	油彩、画布	91.0×116.6
2	洋画	竹田大助	黎明同期	1955年	油彩、ボード	45.5×197.5
3	洋画	中澤英明	子供の顔　寝ぐせ	2003年	テンペラ・油彩、白亜地・綿布・板	45.4×38.0
4	洋画	中澤英明	子供の顔　ベサメ・ムーチョ	2003年	テンペラ・油彩、白亜地・綿布・板	45.4×38.0
5	洋画	中澤英明	子供の顔　地蔵	2004年	テンペラ・油彩、白亜地・綿布・板	45.4×38.0
6	洋画	中澤英明	子供の顔　米	2004年	テンペラ・油彩、白亜地・綿布・板	45.4×38.0
7	水彩・素描	沢居曜子	Carbon-Work II-4	1977年	カーボン紙、和紙	60.0×90.0
8	水彩・素描	沢居曜子	Carbon-Work II-9	1977年	カーボン紙、ケント紙	60.0×90.0
9	水彩・素描	沢居曜子	Line-Work VII-78-3	1978年	鉛筆・アクリル絵具、紙	54.0×78.0
10	水彩・素描	沢居曜子	Line-Work VII-78-6	1978年	色鉛筆・アクリル絵具、紙	60.0×90.0
11	水彩・素描	沢居曜子	Line-Work VII-78-7	1978年	鉛筆・アクリル絵具、紙	60.0×90.0
12	水彩・素描	沢居曜子	Line-Work VI-78-12	1978年	コンテ、ケント紙	60.0×90.0
13	水彩・素描	沢居曜子	Line-Work VI-79-14	1979年	コンテ、ケント紙	60.0×90.0
14	水彩・素描	沢居曜子	Line-Work VI-79-15	1979年	コンテ、ケント紙	60.0×89.6
15	水彩・素描	沢居曜子	Line-Work VI-79-17	1979年	コンテ、ケント紙	60.0×90.0
16	立体	毛利武士郎	無題	1954年	彩色、石膏	53.0×35.0×43.5
17	立体	桑山忠明	untitled	2001年	彩色、アルミニウム	各18.0×17.5×6.5（3ペア1組）
18	立体	多和圭三	泉－想－	2002年	鉄	37.5×37.5×65.5
19	立体	篠原猛史	真っ直ぐな曲線	2004年	鉄、ステンレス	49.3×151.3×76.5

寄贈作品

	種別	作家名	作品名	制作年	技法、材質	寸法(cm)	寄贈者　氏名
1	洋画	竹田大助	パンチュールE	1952年	油彩、画布	37.8×45.5	竹田大助
2	洋画	竹田大助	パンチュールF	1952年	油彩、画布	38.0×45.4	
3	版画	竹田大助	断片(※50点1組)	1957－1979年	ミメオグラフ・モノタイプ、紙	—	
4	洋画	中澤英明	子供の顔　クマ	2001年	テンペラ・油彩、石膏地・寒冷紗・板	36.0×30.0	中澤英明
5	洋画	田口安男	タタラ火より	1980年	テンペラ・油彩、画布	98.0×78.0	小島哲爾
6	洋画	田口安男	つながりあや手	1979年	テンペラ、板	63.5×90.3	
7	洋画	田口安男	空を呼ぶ	1979年	テンペラ・金、板	79.7×52.0	
8	日本画	新見虚舟	朝餉の白川女	1936年	紙本着色	370.6×183.7	新見吉和
9	日本画	新見虚舟	大島の女	1928年頃	紙本着色	181.6×185.3	
10	日本画	新見虚舟	藻魚図	1930年頃	絹本墨画	188.3×187.9	新見永治

寄託

新規寄託品

2005（平成17）年度には新たに4件13点の寄託を受けた。

受託の状況（24件）

分類	点数
日本画	22
洋画	112
立体	53
版画	62
水彩・素描	57
資料	4
計	24件　310点

美術品等取得基金について

愛知県美術館と陶磁資料館が、芸術的価値の高い美術品等を機動的、継続的に収集するための財源として昭和63年4月に設置された。基金には、県からの積立金のほかに、美術品等の収集を支援する民間からの寄付金が含まれている。

運用状況（2006（平成18）年3月31日現在）

基金総額		111億6,513万8,935円
運用内訳	美術品	94億8,171万1,130円 (1,325点)*
	現　金	16億8,342万7,805円

*愛知県美術館所蔵は686点

保存

保存事業の実施状況

ア　所蔵作品の状態調査と保存処置等
　保存処置を外部委託で行ったものは、下記の通り

修復作業
・杉本健吉《冬瓜とわさび》始め５点
　依頼先　浅井千晴
　（技法材料：油彩・画布。修復内容：洗浄、支持体の補強、剥落留め）
・熊谷守一《野良猫》始め８点
　依頼先　森京子
　（技法材料：日本画、軸装。修復内容：しみの印象の軽減）
表装作業
・熊谷守一《張子の虎》
　依頼先　鈴木昌生堂
　（委託内容：軸装）
状態調査
・木村定三コレクションの古画・書跡　12点
　依頼先　半田九清堂、文化財保存、修美
・木村定三コレクションの金属資料　53点
　依頼先　村上隆（奈良文化財研究所）、森田稔（京都国立博物館）
額装
・杉本健吉《冬瓜とわさび》始め10点
　依頼先　ＡＣＳ
　（技法材料：油彩。委託内容：額の新調）
・杉本健吉《庭上麗人》
　依頼先　ＡＣＳ
（委託内容：額の解体修理）
・杉本健吉《宇治平等院》など板絵６点
　依頼先　ＡＣＳ
　（委託内容：収納箱）

イ　保存環境の整備等
・収蔵及び調査の作業環境についての改善を引き続き行った。

管理

作品の管理

・外部包括監査の指摘を受け、備品台帳と所蔵作品リスト、作品カードとの照合整理を行い、平成17年度からの年次計画をもとに現品確認作業を実施した。

・木村定三コレクションの調査整理を３年計画の事業の２ヶ年目として、作品の撮影ならびに整理作業を実施した。

・寄贈作品の大量受け入れにともない、平成16年度に引き続き、収蔵庫内の作品収納場所の変更、整理を行なった。

作品の貸出

内外の美術館等からの所蔵作品の貸出要請に対して、保存状態が良好で、所蔵作品展の展示計画に支障がないものについて、展覧会の内容やその意義を勘案し、所蔵作品貸出要領に則って貸出を行った。

貸出の概要

貸出先		件数	点数
国内	美術館・博物館	45件	137点
	県関係機関	5件	45点
国外	美術館・博物館	1件	2点
計		51件	184点

展示・教育普及

所蔵作品展

展示の概要

県民がいつでも20世紀の美術の展開とその特質に触れることができる展示を提供すると同時に、来館者の多様化する関心に考慮して、各期に、企画展と関連する時代や作家、あるいは一つのまとまりのある美術傾向や作品群に焦点をあてた特集展示を行なった。

平成13年度から年に一度全館を使用して開催している全館所蔵作品展では、愛知県文化会館美術館が開館して50年を迎えたのを機会に、美術館半世紀の歴史をコレクションによって振り返る「美術館50年の歩み」を開催した。

小規模企画展であるテーマ展では、主として当地方で制作あるいは発表活動を行なっている若手作家を取り上げているが、平成17年度は田原市出身の藤城凡子による「ラブレター」と題した展示を行った。

平成13年度以降、数多くの美術品の寄贈を受けた木村定三コレクションについては、展示室一室をあてて常時公開した。

2005（平成17）年所蔵作品展開催状況と入場者数

展示期	会期	入場者数	1日平均
2005（平成17）年度第Ⅰ期	2005年5月24日－9月25日（96日間）	132,821人	1,384人
特集展示 「愛知の美術Ⅱ」 「愛知の美術Ⅲ」 木村定三コレクション室 「木村定三コレクション」	5月24日－7月17日 7月26日－9月25日		
内訳 企画展共通入場者数		131,301人	1,368人
内訳 所蔵作品展のみの入場者数		1,520人	16人
展示期	会期	入場者数	1日平均
第Ⅱ期	2005年10月7日－12月4日（51日間）	9,302人	182人
全館所蔵作品展 「コレクションでたどる美術館50年の歩み」 木村定三コレクション室 「木村定三コレクション」	10月7日－12月4日		
内訳 所蔵作品展のみの入場者数		9,302人	182人
展示期	会期	入場者数	1日平均
第Ⅲ期	2005年12月16日－2006年5月7日 （3月31日までの集計）（76日間）	15,517人	204人
テーマ展 「藤城凡子　ラブレター」 木村定三コレクション室 「木村定三コレクション」 特集展示 「アンドリュー・ワイエス」	12月16日－2月26日 3月10日－5月7日		
内訳 企画展共通入場者数（3月31日までの集計）		14,092人	185人
内訳 所蔵作品展のみの入場者数（3月31日までの集計）		1,425人	19人
2005（平成17）年度　合計（223日間）		157,640人	707人
内訳 企画展共通入場者数		145,393人	652人
内訳 所蔵作品展のみの入場者数		12,247人	55人

2005（平成17）年度合計入場者欄及び内訳欄は、～3/31までの集計

所蔵作品展　展示作品リスト

■2005（平成17）年度第Ⅰ期

愛知万博の開催にあわせて「20世紀の美術」としてコレクションを代表する作品を紹介するとともに、地元、愛知の美術動向についてもシリーズで特集展示を行った。この期間は、万博開催にあわせて「アジアの潜在力展（前期）」「ゴッホ展（後期）」と大規模な企画展を開催したため、展示面積に制約が生じ、コレクションの特徴と魅力を必ずしも十分には紹介できなかった。しかし、ゴッホ展が記録的な入場者となったことで、所蔵作品展への入場者数も大幅に増加した。

前期（5月24日－7月10日）

展示室5　20世紀の美術

〈絵画〉

パブロ・ピカソ
青い肩掛けの女　1902

藤田　嗣治
青衣の少女　1925

梅原　龍三郎
横臥裸婦　1908

ラウル・デュフィ
サンタドレスの浜辺　1906

ピエール・ボナール
にぎやかな風景　1913頃

アンリ・マティス
待つ　1921-22

高橋　由一
不忍池　1880頃

黒田　清輝
暖き日　1897

青木　繁
海　1904

岸田　劉生
斉藤与里氏像　1913

エルンスト=ルートヴィヒ・キルヒナー
グラスのある静物　1912

グスタフ・クリムト
人生は戦いなり（黄金の騎士）　1903

エミール・ノルデ
静物L（アマゾーン、能面等）　1915

ライオネル・ファイニンガー
夕暮れの海Ⅰ　1927

村井　正誠
Cité B　1940

フランティシェク・クプカ
灰色と金色の展開　1919

ジャック・ヴィヨン
存在　1920

ジョージア・オキーフ
抽象　第6番　1928

古賀　春江
夏山　1927

パウル・クレー
女の館　1921

ジョアン・ミロ
絵画　1925

ポール・デルヴォー
こだま（あるいは「街路の神秘」）　1943

マックス・エルンスト
ポーランドの騎士　1954

熊谷　守一
烏　1938

長谷川　利行
酒売場　1927

小出　楢重
蔬菜静物　1925

海老原　喜之助
雪山と樵　1930

アンディ・ウォーホル
レディーズ・アンド・ジェントルメン　1975

サム・フランシス
消失に向かう地点の青　1958

モーリス・ルイス
デルタ・ミュー　1960-61

アド・ラインハート
No.114　1950

桑山　忠明
茶白青　1968

中村　一美
破舎仏涅槃図Ⅰ　1993-95

荒川　修作
Blank Stations　1981-82

辰野　登恵子
Untitled 95-1　1995

フランク・ステラ
リヴァー・オヴ・ポンズ Ⅳ　1969

〈彫刻・立体〉

オーギュスト・ロダン
歩く人　1900

荻原　守衛
女の胴　1907

ジョージ・シーガル
ロバート&エセル・スカルの肖像　1965

ルイーズ・ニーヴェルソン
漂う天界　1959-66

展示室6　愛知の美術Ⅱ －日本画：1950～60年代を中心に－

〈絵画〉

嶋谷　自然
緑影　1950

杉本　健吉
阿修羅像　1958

我妻　碧宇
大仏殿暮色　1950

平川　敏夫
萌林　1960

藤井　達吉
樹　1957頃

藤井　達吉
日の出　1957頃

片岡　球子
足利家の人々　1979

星野　真吾
喪中の作品（昇天）　1965

水谷　勇夫
玩具　1960

展示室7　愛知の美術Ⅱ －洋画：1950～60年代を中心に－

〈絵画〉

横井　礼以
苔と老人　1960

横井　礼以
三つ面　1953

北川　民次
砂の工場　1959

荻須　高徳
サンドニ　1964

杉本　健吉
正倉院　1976

鬼頭　鍋三郎
マドモアゼルM　1954

太田　三郎
美を審かれる三美神　1957

吉本　弘
窓辺（居間にて）　1980

笠井　誠一
室内　1964

島田　章三
スザンナの部屋　1968

坂井　範一
古い物語A　1970

坂井　範一
古い物語B　1970

〈彫刻・立体〉

山本　豊一
聴　1966頃

展示室8　木村定三コレクション室 －鏡－

〈工芸〉

青銅嵌玉　細文地花文鏡　戦国　前3-4世紀

青銅　細文地四龍文鏡　秦～前漢　前1-3世紀

青銅　細文地三龍文鏡　秦～前漢　前1-3世紀

青銅　細文地方格規矩四龍文鏡　前漢　前1-2世紀

青銅　方格規矩四神文鏡　前漢　前1-2世紀

青銅　四神獣文鏡　前漢　前1-2世紀

青銅　重圏「日月」鏡　前漢　前1-2世紀

青銅　方格規矩四神文鏡　新　1世紀

青銅　竹叢双犀文鏡　唐　8-9世紀

青銅　半円方格神獣文鏡　東晋　4-5世紀

青銅　仙宮図鏡　宋あるいは高麗　10-14世紀

青銅彩画　双魚文鏡　高麗　10-14世紀

青銅　双鳳文葵花形鏡　南宋～元　12-14世紀

青銅　列線乳文鏡（倣製）　古墳時代　4-7世紀

青銅　変形獣文鏡　古墳時代　4-7世紀

青銅　変形龍文鏡　古墳時代　4-7世紀

青銅　渦形文鏡　古墳時代　4-7世紀

青銅　多乳文鏡　古墳時代　4-7世紀

青銅　四鈴変形獣文鏡　古墳時代　4-7世紀

青銅　方格規矩四獣文鏡　古墳時代　4-7世紀

青銅　五鈴変形獣文鏡　古墳時代　4-7世紀

青銅　五鈴変形獣文鏡　古墳時代　4-7世紀

青銅　重圏鏡　古墳時代　4-7世紀

青銅　蓬莱鏡　平安時代後期　11-12世紀

青銅　松喰鶴文鏡　平安時代後期　11-12世紀

青銅　松喰鶴文鏡　平安時代後期　11-12世紀

青銅　草花鳥蝶文鏡　平安時代後期～鎌倉時代　11-14世紀

青銅　秋草双鳥文鏡　鎌倉時代　14世紀

青銅　草花鳥蝶文鏡　鎌倉時代～南北朝時代　14世紀

ロビー、ラウンジ

〈絵画〉

中村　正義
顔　1976

中村　正義
舞妓　1974

〈彫刻・立体〉

アレクサンダー・コールダー
ゴースト　1976

久野　真
鋼鉄による作品　1959

山本　豊市
スツール　1975

〈工芸〉

藤井　達吉
野立具一式　1946頃

屋外展示スペース

〈彫刻・立体〉

コルネリス・ジットマン
カリブの女　1983

アルナルド・ポモドーロ
飛躍の瞬間　1984

加藤　昭男
大地　1986

小田　襄
円柱の構造　1988

今井　瑾郎
大地　1992

後期（7月26日－9月25日）

展示室5　20世紀の美術

〈絵画〉

パブロ・ピカソ
青い肩掛けの女　1902

藤田　嗣治
青衣の少女　1925

高橋　由一
不忍池　1880頃

黒田　清輝
暖き日　1897

青木　繁
海　1904

岸田　劉生
斉藤与里氏像　1913

梅原　龍三郎
横臥裸婦　1908

エルンスト=ルートヴィヒ・キルヒナー
グラスのある静物 1912

グスタフ・クリムト
人生は戦いなり（黄金の騎士） 1903

エミール・ノルデ
静物 L(アマゾーン、能面等) 1915

ラウル・デュフィ
サンタドレスの浜辺 1906

ピエール・ボナール
にぎやかな風景 1913頃

アンリ・マティス
待つ 1921-22

ライオネル・ファイニンガー
夕暮れの海 I 1927

村井　正誠
Cité B 1940

フランティシェク・クプカ
灰色と金色の展開 1919

ジャック・ヴィヨン
存在 1920

古賀　春江
夏山 1927

パウル・クレー
女の館 1921

ジョアン・ミロ
絵画 1925

ポール・デルヴォー
こだま(あるいは「街路の神秘」) 1943

マックス・エルンスト
ポーランドの騎士 1954

海老原　喜之助
雪山と樵 1930

小出　楢重
蔬菜静物 1925

長谷川　利行
酒売場 1927

熊谷　守一
鳥 1938

桑山　忠明
茶白青 1968

アド・ラインハート
No.114 1950

モーリス・ルイス
デルタ・ミュー 1960-61

サム・フランシス
消失に向かう地点の青 1958

フランク・ステラ
リヴァー・オヴ・ポンズ IV 1969

荒川　修作
Blank Stations 1981-82

中村　一美
破舎仏涅槃図 I 1993-95

辰野　登恵子
Untitled 95-1 1995

〈彫刻・立体〉

オーギュスト・ロダン
歩く人 1900

荻原　守衛
女の胴 1907

ハンス・アルプ
森 1917頃

ジョージ・シーガル
ロバート&エセル・スカルの肖像 1965

ルイーズ・ニーヴェルソン
漂う天界 1959-66

展示室6　愛知の美術III

〈絵画〉

浅野　弥衛
作品（フロッタージュ） 1983

槇田　伸也
通り過ぎた風景 1982

今村　幸生
ムムイエ族の闇 1995

〈立体〉

野水　信
六面体をくぐりぬける円環 1980

久野　真
鋼鉄による作品 1982

原　裕治
アポクリファ　No. 1 1994

原　裕治
アポクリファ　No. 2 1994

展示室7　愛知の美術III

〈絵画〉

嶋谷　自然
阿蘇 1981

高畑　郁子
聖界 1980

加藤　東一
伝承 1982

杉本　健吉
正倉院 1976

丹羽　和子
朱い糸 1980

加藤　金一郎
樹の下のメルカード（グァテマラ） 1980

笠井　誠一
ウクレレとグロリオサのある卓上静物 1995

島田　鮎子
白の想い 1997

島田　章三
人と植物のようす 1994

稲垣　考二
陽光 1990

三尾　公三
Palm Beach 昼下り 1989

星野　真吾
正夢か 1981

展示室8　木村定三コレクション室 －熊谷守一－

〈絵画〉

熊谷　守一
裸 1937

熊谷　守一
漁村 1954

熊谷　守一
土饅頭 1954

熊谷　守一
たまご 1959

熊谷　守一
雨滴 1961

熊谷　守一
白猫 1962

熊谷　守一
蝦蔓に蟻 1938

熊谷　守一
鯰に虹 1939

熊谷　守一
不動明王 1940

熊谷　守一
機織虫 1944

熊谷　守一
ゲンゴロウ 1952

熊谷　守一
磯撫子にイチモジ蝶 1966

〈書〉

熊谷　守一
無　1940

熊谷　守一
天地自在　1942

熊谷　守一
ほとけさま　1950

熊谷　守一
すずめ　1950

熊谷　守一
福は内鬼は外　1963

熊谷　守一
お前百までわしやいつまでも　1973

〈彫刻〉

熊谷　守一
裸　1952

熊谷　守一
はだか　1952

熊谷　守一
臥裸婦　1955

〈工芸〉

熊谷　守一
二匹かまきり図壺　1943

前室

〈絵画〉

小川　博史
北風　1982

中澤　英明
子供の顔　ウサギ　2003

中澤　英明
子供の顔　鴨　2004

〈素描〉

庄司　達
原形と写形　No．2　1978

〈彫刻・立体〉

アレクサンダー・コールダー
片膝ついて　1944-48

加藤　昭男
ツタンカーメンのえんどう豆　1996

屋外展示スペース

〈彫刻・立体〉

コルネリス・ジットマン
カリブの女　1983

アルナルド・ポモドーロ
飛躍の瞬間　1984

加藤　昭男
大地　1986

小田　襄
円柱の構造　1988

今井　瑾郎
大地　1992

■2005（平成17）年度第Ⅱ期

愛知県文化会館美術館開館以来50周年を迎えたのを記念して、コレクションの形成を軸に美術館活動の歴史を振り返った。そのなかで、戦後社会にあって美術館がどのような位置にあってその活動を続けてきたのか、この地域社会において愛知県美術館が求められ、また果たしてきた役割は何だったのかを確認するとともに、市民社会が成熟へと向かうなかで、今後美術館がどうあるべきかを考える機会ともした。展覧会は50年に及ぶ活動の一端がコレクションとして蓄積されてきたことを示すことができた。また、学芸員全員による展示作品解説をはじめとする教育普及事業にも力を注ぎ、企画展の開催に偏重しがちな美術館活動とその利用にたいして、コレクションを蓄積していくことの重要さを伝えることができた。

展覧会は以下の４章で構成した。

・戦後復興の象徴としての美術館　1950年代
・高度経済成長と社会の成熟のなかで　1960～1980年代
・美術館建設ラッシュとバブル経済のなかで　1987年～1998年
・21世紀の美術館を求めて

会期（10月７日－12月４日）

展示室１

エミール=アントワーヌ・ブールデル
勝利　1916

エミール=アントワーヌ・ブールデル
雄弁　1916

エミール=アントワーヌ・ブールデル
自由　1916

エミール=アントワーヌ・ブールデル
力　1914-15

太田　三郎
カフェーの女　1914

太田　三郎
婦人像　1915頃

太田　三郎
三媸図　1929

太田　三郎
美を審かれる三美神　1957

藤井　達吉
山芍薬　1921頃

藤井　達吉
あざみ　1932頃

藤井　達吉
葡萄ともみじ　1930代

藤井　達吉
一閑張すほう染手箱　1940

藤井　達吉
縫色紙風蓋物　1947頃

藤井　達吉
やまかげ　1956頃

藤井　達吉
かしわもち　1956頃

藤井　達吉
草花　1956頃

藤井　達吉
扇面流し　1954

【近代日本の美術　1】

青木　繁
太田の森　1902

安井　曽太郎
婦人像　1912頃

梅原　龍三郎
若き羅馬人　1909

坂本　繁二郎
海岸の家　1915

岸田　劉生
斉藤与里氏像　1913

中村　彝
少女裸像　1914

河野　通勢
自画像　1917

小出　楢重
N婦人像　1918

萬　鐵五郎
紅葉風景　1926

古賀　春江
夏山　1927

海老原　喜之助
雪山と樵　1930

海老原　喜之助
ゲレンデ　1930

前田　寛治
褐衣婦人像　1925

須田　国太郎
夏　1941

高田　博厚
女のトルソ　1937

横井　礼以
室内静物　1926

宮脇　晴
お手玉の少女　1922

宮脇　晴
子等遊ぶ渓　1943

大沢　鉦一郎
大曽根風景　1919

大沢　鉦一郎
自画像　1919

大沢　鉦一郎
ジンベを着た少女　1920

大沢　鉦一郎
少女海水浴　1932

展示室2

松下　春雄
二人のポーズ　1933

伊藤　廉
肘をつく女　1929

伊藤　廉
ギター奏手　1932

伊藤　廉
水牛の喧嘩　1937

佐分　真
アパッシュ・シャルボニエ　1931頃

佐分　真
裸婦　1930代

佐分　真
ステッキの老人　1932

佐分　真
印度の女　1930

鬼頭　鍋三郎
浴後　1938

鬼頭　鍋三郎
マドモアゼルM　1954

鬼頭　鍋三郎
二人のバレリーナ　1952

宮田　重雄
パリ・サンルイ病院裏　1930

荻須　高徳
線路に面した家　1955

荻須　高徳
サン・ドニ　1964

山本　豊市
スツール　1975

鳥海　青児
うずくまる　1954

古茂田　守介
裸婦A　1957

山田　光春
人も牛も　1954

香月　泰男
散歩　1953

山口　薫
ボタン雪と騎手　1953

金山　康喜
静物　1956

小磯　良平
室内A　1972

牛島　憲之
埋れる船　1962

森　芳雄
アクロポリス　1963

笠井　誠一
室内　1964

桂　ゆき
人と魚　1954

鶴岡　政男
夜　1955

眞島　建三
原始言語　1963

柳原　義達
風の中の鴉　1982

舟越　保武
シオン　1979

糸園　和三郎
丘の或る日　1979

島田　鮎子
卓上にて　1974

木村　忠太
ヌムールの運河　1966

三尾　公三
鏡の前　1982

佐々木　豊
おんなの部屋　1979

中村　正義
人物　1958頃

中村　正義
峠への路　1960

中村　正義
ピエロ　1963

中川　とも
歓異鈔　1968

片岡　球子
足利家の人々　1979

三上　誠
経絡万華経　1967

三上　誠
環1・経絡　1967

星野　真吾
正夢か　1981

山本　丘人
幻雪　1978

吉田　善彦
雨余桂林　1982

杉本　健吉
阿修羅像　1958

加山　又造
黒い鳥　1957

平川　敏夫
萌林　1960

大森　運夫
島の鬼太鼓　1976

田渕　俊夫
青木ケ原　1969

竹内　浩一
風　1981

小松　均
富士山(上)　1977

小松　均
富士山(下)　1977

【近代日本の美術　2】

高橋　由一
不忍池　1880頃

浅井　忠
八王子付近の街　1887

久米　桂一郎
秋景　1892

黒田　清輝
暖き日　1897

梅原　龍三郎
横臥裸婦　1908

岸田　劉生
高須光治君之肖像　1915

中村　彝
静物　1915頃

小出　楢重
蔬菜静物　1925

安井　曽太郎
承徳喇嘛廟　1938

神原　泰
生命の流動　1924

村井　正誠
ゴルフジュアンの船　1929

藤田　嗣治
青衣の少女　1925

国吉　康雄
帽子の女　1920頃

清水　登之
建築現場(ワーガーデン)　1923

北川　民次
メキシコ三童女　1937

長谷川　利行
酒売場　1927

長谷川　利行
ノアノアの少女　1937

熊谷　守一
鳥　1938

靉光
自顔像　1934

靉光
編み物をする女　1934

松本　竣介
ニコライ堂　1941

【版画コレクション】

ロベルト・マッタ
ホメロス　Ⅳ『拠点』　1983

ジョルジュ・ブラック
裸婦習作　Aug-1907

パブロ・ピカソ
果物皿のある静物　1909

ジョルジュ・ブラック
小さなキュビスム的ギター　1909-10(1954)

ジョルジュ・ブラック
Pale Ale　1912(1954)

ジョルジュ・ブラック
Bass　1911(1950)

パブロ・ピカソ
男の頭部　1911(1912)

パブロ・ピカソ
ギターを持つ男　1915(1929)

ジャック・ヴィヨン
横顔のイヴォンヌ　1913

ルイ・マルクーシ
ギョーム・アポリネールの肖像　1912-20

瑛九
驚き　1951

瑛九
作品　制作年不詳

ラースロー・モホリ=ナジ
コンストラクション「ケストナー版画集6」より　1922-1923

ヴァシリー・カンディンスキー
夕暮れ　1903

ヴァシリー・カンディンスキー
鏡　1907

オスカー・ココシュカ
版画集『夢みる少年たち』　1907

エゴン・シーレ
しゃがみこむ女　1914(1919)

ケーテ・コルヴィッツ
青い服の女　1903

マックス・ベックマン
自画像　1919

エミール・ノルデ
騎士　1906

エーリヒ・ヘッケル
疲れ　1913

エルンスト=ルートヴィヒ・キルヒナー
三本の道　1917

恩地　孝四郎
卓上静物　1918

恩地　孝四郎
丘頂　1917頃

藤牧　義夫
まくら橋　1934

藤牧　義夫
銀行　1933

川上　澄生
異国雨の夕景　1924(1925)

深沢　索一
丘上走土　1925

藤森　静雄
夜『月映Ⅰ』より　1914

田中　恭吉
太陽と花『月映Ⅰ』より　1913

田中　恭吉
病める夕『月映Ⅰ』より　1913

恩地　孝四郎
抒情Ⅰ『月映Ⅰ』より　1914

谷中　安規
自画像　1932

谷中　安規
蝶を吐く人　1933

長谷川　潔
酒杯の草花　1963

長谷川　潔
メキシコの鳩　静物画　1966

長谷川　潔
本の上の小鳥　静物画　1967

ヘンリー・ムーア
シェルター・スケッチブック　1967

アレクセイ・クルチョーヌィフ
『爆』第2版　1913

フェルナン・レジェ
天使N－Dが撮影した世界の終わり　1919

ブリュッケ展カタログ版画集　1910

バウハウスマイスター版画作品集　1923

アンリ・マティス
マラルメ詩集　1948

アンリ・マティス
ロンサール恋愛歌集　1948

パブロ・ピカソ
変身物語 1931

ヴォルス
ヴォルス版画集 1962

蒲原　有明
『春鳥集』 1905

蒲原　有明
『月映』

蒲原　有明
『詩と版画』

蒲原　有明
『版芸術』

蒲原　有明
『白と黒』

本野盛一（長谷川潔画）
『竹取物語』 1934

展示室3

【素描と彫刻－人体】

安井　曽太郎
人体（男） 1907

安井　曽太郎
人体（女） 1907

大沢　鉦一郎
手 1918

大沢　鉦一郎
手 1916

宮脇　晴
手 1923

戸張　孤雁
立てる女 1911

中原　悌二郎
エチュード 1914

戸張　孤雁
立てる女 制作年不詳

戸張　孤雁
瞽女の三味線の竿 制作年不詳

戸張　孤雁
足芸 制作年不詳

戸張　孤雁
綱渡り 制作年不詳

オーギュスト・ロダン
歩く人 1900

パウル・クレー
回心した女の堕落 1939

中村　正義
顔 1975

三上　誠
カップサイズ 1965頃

近藤　文雄
裁き 1962

池田　龍雄
作品56「化物の系譜」シリーズより 1956

池田　龍雄
顔「化物の系譜」シリーズより 1956

筧　忠治
横顔3 1949

筧　忠治
正面の顔1 1930

筧　忠治
裸体習作 1938

稲垣　考二
胸像 1944

メダルド・ロッソ
病める子 1893

前室1

戸谷　成雄
双影体Ⅱ 2001

展示室4

【20世紀の美術　1】

エルンスト・バルラッハ
忘我 1911-1912

ヴィルヘルム・レームブルック
立ち上がる青年 1913

グスタフ・クリムト
人生は戦いなり（黄金の騎士） 1903

エミール・ノルデ
静物L（アマゾーン、能面等） 1915

ジョルジュ・ミンヌ
聖遺物箱を担ぐ少年 1897

ケーテ・コルヴィッツ
恋人たちⅡ 1913

エドゥワール・ヴュイヤール
窓辺の女 1898

アルベール・マルケ
ノートルダムの後陣 1902

ピエール・ボナール
子供と猫 1906頃

アンリ・マティス
待つ 1921-1922

ピエール・ボナール
にぎやかな風景 1913頃

パブロ・ピカソ
青い肩かけの女 1902

アレクサンダー・アーチペンコ
歩く女 1912

アメデオ・モディリアーニ
カリアティード 1911-13

ハンス（ジャン）・アルプ
星座 1932

ジョアン・ミロ
絵画 1925

フランティシェク・クプカ
灰色と金色の展開 1919

ジャック・ヴィヨン
存在 1920

ジャーコモ・バッラ
太陽の前を通過する水星（習作） 1914

ジャーコモ・マンズー
踊りのステップ 1953

ポール・デルヴォー
こだま（あるいは「街路の神秘」） 1943

マックス・エルンスト
ポーランドの騎士 1954

パウル・クレー
女の館 1921

ライオネル・ファイニンガー
夕暮れの海Ⅰ 1927

ジョージア・オキーフ
抽象　第6番 1928

エルンスト＝ルートヴィヒ・キルヒナー
日の当たる庭 1935

エルンスト＝ルートヴィヒ・キルヒナー
グラスのある静物 1912

展示室5

【20世紀の美術　2】

ジム・ダイン
芝刈機 1962

アンディ・ウォーホル
レディース・アンド・ジェントルメン 1975

ルイーズ・ニーヴェルソン
漂う天界 1959-66

桑山　忠明
茶白青 1968

オノサトトシノブ
三つの黒 1958

ルーチョ・フォンターナ
空間概念 1960

斎藤　義重
作品　1962

アントニ・タピエス
コンポジション　1977

瑛九
黄色い花　1957-58

山田　正亮
Work No.B 182　1958

アド・ラインハート
No.114　1950

アレクサンダー・コールダー
片膝ついて　1944(1968)

中西　夏之
紫・むらさき XIX　1983

宇佐美　圭司
長い歩み　1964

元永　定正
作品　1961

菅井　汲
ナショナル・ルート No.11　1964

伊藤　誠
頂上　2004

加納　光於
流動のセミオティク　1982

山口　長男
屏形　1963

細井　篤
ボーダーズ・ゲーム　2004

【近代日本の美術　3】

橋本　雅邦
秋景山水図　1887

山元　春挙
渓村暮靄図　1900頃

川合　玉堂
湖畔晩帰　1928

竹内　栖鳳
狐狸図　1908頃

小林　古径
洗濯場　その1　1926

小林　古径
洗濯場　その2　1926

速水　御舟
西郊小景　1923

小茂田　青樹
漁村早春　1921

安田　靫彦
月の兎　1934

横山　大観
飛泉　1900頃

菱田　春草
紅葉山水　1908頃

小川　芋銭
沼四題　小鰕網　1922

小川　芋銭
沼四題　泥鰌打　1922

前田　青邨
朝鮮五題　水汲　1939

前田　青邨
朝鮮五題　魚売　1939

橋本　関雪
猿猴待月　1938頃

鏑木　清方
蛍　1938

伊東　深水
大島の黎明　1916

村上　華岳
梅渓山道　1914

土田　麦僊
南国早春　1915頃

入江　波光
南欧小景　1923

水谷　勇夫
玩具　1960

麻生　三郎
胴体と頭と電球　1964

脇田　和
断層の人と鳥　1960

檜田　伸也
通り過ぎた風景　1982

島田　章三
石庭女人図　1976

平松　礼二
峠四題　路・家路　1992

東山　魁夷
雪の山郷　1991

平山　郁夫
楼蘭の遺跡・昼　1990

展示室6

フランツ・ゲルチュ
ナターシャ IV　1987-88

榎倉　康二
干渉(Story-No.49)　1992

堀　浩哉
風の音へ－84・2　1984

堀　浩哉
水の肌へ－84・2　1984

舟越　桂
肩で眠る月　1996

杉戸　洋
the Wave　2002

展示室7

【近年の寄贈作品より】

秋岡　美帆
ゆれるかげ　1991

杉本　健吉
秘苑　1971

杉本　健吉
婦人像　1972

杉本　健吉
椿・パイナップル　1989

杉本　健吉
聚楽園大仏　1988

杉本　健吉
邪鬼　1955

杉本　健吉
火牛下図　制作年不詳

森岡　完介
Beethoven at the beach - Message 86-11N　1986

磯見　輝夫
鳥の如く　1988

吉岡　弘昭
23番街の悪漢　1981

辰野　登恵子
Aug-86-9　1986

辰野　登恵子
Oct-86-5　1986

展示室8

【木村定三コレクション】

銅鋳製経筒　平安後期 1147

青玉　璧　中国 新石器時代 BC4000-BC2500

青玉　穀粒獣文璧　中国 前漢時代 BC2-BC1

玉琮　中国 西周時代 BC11-BC8

玉琮　中国 西周時代 BC11-BC8

玉　器台　中国 殷～西周時代 BC16-BC8

青玉　琮　中国 清時代 17-19c.

青銅　蟠螭文壷　中国 春秋時代 BC8-BC5

青銅　博山炉　中国 前漢時代 BC2-BC1

青銅透彫　雲気文香炉（行炉）　中国 前漢時代 BC2-BC1

青銅　灯　中国 前漢時代 BC2-BC1

石造三尊仏坐像　中国 北魏時代（延昌4（515）銘）

方形三尊塼仏　白鳳時代 7世紀後半

瓦経（筑前飯盛山出土）　平安後期 12世紀後半

黒織部茶碗　銘　菱餅　桃山時代 17世紀

志野茶碗　銘　鵬　桃山時代 16-17世紀（11月24日まで展示）

小山　冨士夫
種子島茶碗　銘　月世界　1970代

熊谷　守一
裸　1937

熊谷　守一
麦畑　1939

熊谷　守一
伸餅　1949

熊谷　守一
朝の日輪　1955

熊谷　守一
梅　1956

熊谷　守一
石亀　1957

熊谷　守一
瓜　1965

熊谷　守一
白仔猫　1958

熊谷　守一
猫　1965

前室2

工藤　哲巳
果てしなく綾糸がからまるマルセル・デュシャン　1977

柳原　義達
裸婦　1993

柳原　義達
裸婦　1992

柳原　義達
鳩　1990代

柳原　義達
鳩　1993

柳原　義達
鳩　1991

荒木　高子
砂の聖書　1983

石造三尊仏坐像　中国 北魏時代（6世紀前半）木村定三コレクション

加藤　昭男
ツタンカーメンのえんどう豆　1996

ロビー

モーリス・ルイス
デルタ・ミュー　1960-61

ジョージ・シーガル
ロバート＆エセル・スカルの肖像　1965

フランク・ステラ
リヴァー・オヴ・ポンズ IV　1969

ラウンジ

庄司　達
黄色い布による空間（糸の柱）'98　1998

屋外展示スペース

今井　瑾郎
大地　1992

小田　襄
円柱の構造　1988

コルネリス・ジットマン
カリブの女　1983

アルナルド・ポモドーロ
飛躍の瞬間　1984

加藤　昭男
大地　1986

■2005（平成17）年度第Ⅲ期

この期は、20世紀の美術を中心とする通常の開催形態に戻した。前期では、開催中の「吉原治良展」に合わせて、具体美術の活動に参加した作家など吉原に関係する作家を20世紀の美術の展示のなかに意識的に加えた。また、テーマ展では、新しい世代の作家として藤城凡子を取り上げた。後期では、会期中から名古屋市美術館との共同企画として「桑山忠明　ワンルーム・プロジェクト　2006」（4月8日－5月21日、6月2日－7月23日）を開催した。またその関連する作品を、20世紀の美術のなかで重点的に展示した。

前期（12月16日－2006年2月26日）

展示室4　20世紀の美術 I

パブロ・ピカソ
青い肩掛けの女　1902

アンリ・マティス
待つ　1921-22

ラウル・デュフィ
サンタドレスの浜辺　1906

ピエール・ボナール
子供と猫　1906頃

ピエール・ボナール
にぎやかな風景　1913頃

アルベール・マルケ
ノートルダムの後陣　1902

アメデオ・モディリアーニ
カリアティード　1911-13

アメデオ・モディリアーニ
黒い瞳の女　1918

藤田　嗣治
青衣の少女　1925

海老原　喜之助
ゲレンデ　1930

梅原　龍三郎
横臥裸婦　1908

野口　弥太郎
門　1931頃

矢橋　六郎
女の肖像　1936

林　武
婦人像　1940

村井　正誠
ゴルフジュアンの船　1929

村井　正誠
Cité B　1940

山田　光春
蠢　1937

山田　光春
門　1936

フランティシェク・クプカ
灰色と金色の展開　1919

ジャック・ヴィヨン
存在　1920

ライオネル・ファイニンガー
夕暮れの海 I　1927

パウル・クレー
女の館　1921

ジョージア・オキーフ
抽象　第6番　1928

ジョアン・ミロ
絵画　1925

エルンスト=ルートヴィヒ・キルヒナー
グラスのある静物　1912

エミール・ノルデ
静物 L（アマゾーン、能面等）　1915

グスタフ・クリムト
人生は戦いなり（黄金の騎士）　1903

〈彫刻〉

高田　博厚
女のトルソ　1937

展示室５　20世紀の美術 II

瑛九
黄色い花　1957-58

オノサトトシノブ
三つの黒　1958

山田　正亮
Work No.B 182　1958

山口　薫
ボタン雪と騎手　1953

麻生　三郎
胴体と頭と電球　1964

山口　長男
屏形　1963

田淵　安一
有機的表象　1955

脇田　和
断層の人と鳥　1960

ニコラ・ド・スタール
コンポジション　1948

アントニ・タピエス
コンポジション　1977

コーナー展示「吉原治良の仲間たち」

元永　定正
作品　1961

斎藤　義重
ゼロイスト　1973（1950）

斎藤　義重
作品　1962

須田　剋太
作品1984曼陀羅　1984

白髪　一雄
作品　1963

白髪　一雄
黒大佛　1988

サム・フランシス
消失に向かう地点の青　1958

ルーチョ・フォンターナ
空間概念　1960

モーリス・ルイス
デルタ・ミュー　1960-61

桑山　忠明
茶白青　1968

フランク・ステラ
リヴァー・オヴ・ポンズ IV　1969

野見山　暁治
伝承のかたち　1988

加納　光於
流動のセミオティク　1982

中村　一美
破舎仏涅槃図 I　1993-95

辰野　登恵子
Untitled 95-1　1995

榎倉　康二
干渉（Story-No.49）　1992

〈彫刻・立体〉

ジョージ・シーガル
ロバート＆エセル・スカルの肖像　1965

ルイーズ・ニーヴェルソン
漂う天界　1959-66

展示室６　テーマ展 藤城凡子「ラブレター」

〈絵画〉

藤城　凡子
惑星　ほか　2005

展示室７　現代の美術

中澤　英明
子供の顔　クマ　2001

中澤　英明
子供の顔　ウサギ　2003

中澤　英明
子供の顔　アヒル　2004

中澤　英明
子供の顔　ドラセナ・マッサン（幸福の樹）　2004

中澤　英明
子供の顔　蟷螂　2004

中澤　英明
子供の顔　地蔵　2004

森　万里子
Mirage（ImageD）　1997-98

杉戸　洋
the Second Lounge　2002

森村　泰昌
Doublonge（Dancer 2）　1988

長谷川　純
IAO　2002

村上　隆
HIROPON　1994

細井　篤
ボーダーズ・ゲーム　2004

展示室８　木村定三コレクション室 近代日本の美術

〈絵画〉

長谷川　利行
（ガラス絵）　19**

長谷川　利行
ノアノアの少女　1937

岸田　劉生
大菩薩峠清澄茂太郎図　1929

岸田　劉生
厨房新鮮図　制作年不詳

岸田　劉生
王母千年実図　1929頃

岸田　劉生
秋閑小彩図　制作年不詳

岸田　劉生
秋山隠士図　1929

岸田　劉生
翡翠柳図　制作年不詳

岸田　劉生
洛東深緑図　制作年不詳

小川　芋銭
山彦の谷　1921

小川　芋銭
暁山雲　1923

小川　芋銭
紆泉道人洗面之池　1926

小川　芋銭
闘鶏村　1933

小川　芋銭
桃花流水送漁夫　1934

小川　芋銭
卯月の芭蕉庵　1935

小川　芋銭
水郷春日　1936頃

香月　泰男
ナホトカ　1961

熊谷　守一
酉日　1955

熊谷　守一
氏家桃林　1956

熊谷　守一
雨水　1959

前室１　線の造形

銅鋳製経筒　1147（平安後期）

オシップ・ザッキン
チェロのトルソ　1956・57

前室２

〈絵画〉

須田　剋太
東大寺　1981

〈彫刻・立体〉

アレクサンダー・コールダー
片膝ついて　1944-48

工藤　哲巳
果てしなく綾糸がまとわるマルセル・デュシャン　1977

荒木　高子
砂の聖書　1983

ラウンジ

野水　信
コの記号　65-3　1965

屋外展示スペース

〈彫刻・立体〉

コルネリス・ジットマン
カリブの女　1983

アルナルド・ポモドーロ
飛躍の瞬間　1984

加藤　昭男
大地　1986

小田　襄
円柱の構造　1988

今井　瑾郎
大地　1992

後期（2006年３月10日－５月７日）

展示室４　20世紀の美術Ｉ

〈絵画〉

高橋　由一
不忍池　1880頃

黒田　清輝
暖き日　1897

青木　繁
海　1904

小茂田　青樹
漁村早春　1921

小林　古径
洗濯場　その１　1926

小林　古径
洗濯場　その2　1926

速水　御舟
西郊小景　1923

海老原　喜之助
雪山と樵　1930

萬　鐵五郎
水郷風景　1926

熊谷　守一
烏　1938

長谷川　利行
伊豆大島　1937

北川　民次
タスコからの眺望　1933

安井　曽太郎
承徳喇嘛廟　1938

小出　楢重
蔬菜静物　1925

パブロ・ピカソ
青い肩掛けの女　1902

藤田　嗣治
青衣の少女　1925

アメデオ・モディリアーニ
カリアティード　1911-13

アルベール・マルケ
ノートルダムの後陣　1902

アンリ・マティス
待つ　1921-22

ラウル・デュフィ
サンタドレスの浜辺　1906

ピエール・ボナール
にぎやかな風景　1913頃

ライオネル・ファイニンガー
夕暮れの海Ｉ　1927

パウル・クレー
女の館　1921

ジョアン・ミロ
絵画　1925

エルンスト＝ルートヴィヒ・キルヒナー
グラスのある静物　1912

エミール・ノルデ
静物Ｌ（アマゾーン、能面等）　1915

グスタフ・クリムト
人生は戦いなり（黄金の騎士）　1903

〈彫刻〉

高田博厚
女のトルソ 1937

展示室5　20世紀の美術II

〈絵画〉

菅井　汲
ナショナル　ルート　No.11 1964

オノサトトシノブ
三つの黒 1958

アド・ラインハート
No.114 1950

アグネス・マーティン
無題＃3 1991

ジョーゼフ・アルバース
正方形頌 1962

山田　正亮
Work No.B 182 1958

山口　長男
屏形 1963

浅野　弥衛
作品 1979

百瀬　寿
Square-NE XIV：Twelve Stripes E 1987

中西　夏之
K.T 像・オレンヂドア 1966

中西　夏之
K.T 像・グリーンドア III 1966

加納　光於
流動のセミオティク 1982

李　禹煥
WITH WINDS 1988

榎倉　康二
干渉（Story-No.49） 1992

斎藤　義重
作品 1962

ルーチョ・フォンターナ
空間概念 1960

ロバート・ラウシェンバーグ
コース 1958

サム・フランシス
消失に向かう地点の青 1958

モーリス・ルイス
デルタ・ミュー 1960-61

フランク・ステラ
リヴァー・オヴ・ボンズ IV 1969

宇佐美　圭司
ビッグ・バン 1987

中西　夏之
紫・むらさき　XIX 1983

荒川　修作
Blank Stations 1981-82

桑山　忠明
茶白青 1968

〈彫刻・立体〉

堀内　正和
四角と丸の組合せb 1956

ジョージ・シーガル
ロバート＆エセル・スカルの肖像 1965

ルイーズ・ニーヴェルソン
漂う天界 1959-66

展示室6　彫刻

＊ただし、4月8日より
「桑山忠明　ワンルーム・プロジェクト　2006」（4月2日（日）まで）

〈彫刻・立体〉

メダルド・ロッソ
病める子 1893

オーギュスト・ロダン
歩く人 1900

舟越　桂
肩で眠る月 1996

［4月8日（土）から］
桑山忠明　ワンルームプロジェクト2006

〈絵画〉

桑山　忠明
untitled 2001

展示室7　現代美術の多様性

〈絵画〉

森岡　完介
人は何処へ　77-3 1977

森岡　完介
人は何処へ　78-16 1978

安斎　重男
"The 10th Tokyo Biennale, Tokyo Metropolitan Museum, May 1970" 1998

野田　哲也
日記1976年2月11日 1976

野田　哲也
日記1978年2月10日 1978

野田　哲也
日記1978年8月19日 1978

野田　哲也
日記1979年8月10日 1979

野田　哲也
日記1983年2月27日小金井 1983

野田　哲也
日記1987年5月3日柏市亀甲台2-12-4 1987

展示室8　アンドリュー・ワイエス

〈絵画〉

アンドリュー・ワイエス
自画像 1938

アンドリュー・ワイエス
船着場 1940

アンドリュー・ワイエス
海辺のキャロル 1951

アンドリュー・ワイエス
カーナーの農場 1979

アンドリュー・ワイエス
晩秋 1982

アンドリュー・ワイエス
ワードローブ 1985

アンドリュー・ワイエス
粉ひき小屋 1985

アンドリュー・ワイエス
物干し 1985

アンドリュー・ワイエス
鋭い刃 1989

アンドリュー・ワイエス
ドアベル 1990

［4月28日（金）から］

アンドリュー・ワイエス
氷塊 I 1968

前室1

〈考古〉

四区袈裟襷文銅鐸 紀元前1世紀頃

〈絵画〉

村井　正誠
Cité B 1940

前室2

〈絵画〉

瑛九
作品 制作年不詳

〈彫刻・立体〉

アレクサンダー・コールダー
片膝ついて 1944-48

アレクサンダー・コールダー
ゴースト 1976

工藤　哲巳
果てしなく綾糸がからまるマルセル・デュシャン 1977

荒木　高子
砂の聖書 1983

ロビー、ラウンジ

〈絵画〉

中村　一美
破舎仏涅槃図 I 1993-95

〈彫刻・立体〉

エミール=アントワーヌ・ブールデル
ペネロープ 1909

屋外展示スペース

〈彫刻・立体〉

コルネリス・ジットマン
カリブの女 1983

アルナルド・ポモドーロ
飛躍の瞬間 1984

加藤　昭男
大地 1986

小田　襄
円柱の構造 1988

今井　瑾郎
大地 1992

テーマ展（小企画展）

藤城凡子「ラブレター」

会期　2005年12月16日（金）－2006年２月26日（日）
会場　展示室６
協力　白土舎
協賛　信越化学工業株式会社
担当学芸員　深山孝彰

藤城凡子（ふじしろ・なみこ）は1971年愛知県田原に生まれ、高校卒業後1989年からイギリスで学んで96年に帰国し、名古屋市内の画廊での個展と、愛知県内と居住地に近い関東地域でのグループ展や企画展で発表を重ねている。絵画や立体、写真など幅広い方法による作品は、一見マンガ的な描法やポップな明るさと可愛らしさやユーモアを装いながら、その奥には少女期に感じた性的・精神的ないじめや、社会・環境などへの問題意識をはらませてきた。2000年に始めた天体による作品群では子宮感覚を宇宙的な愛と慈しみに広げ、特に透明シリコーンを満たした水槽で月や惑星を「飼育」する作品が注目されて、このテーマ展会期中に埼玉県立近代美術館で開催された「遊びの美術」展にも招待出品されている。

この個展「ラブレター」出品作は全て新作であるが、藤城の作家活動10年にもあたる節目として、彼女の様々な要素を集大成した構成となった。展示室の両端壁は、瞳に地球を映した「月少女」と瞳に月を映した「地球少年」の絵が向き合う。二人の間の床には水を張った９個の盥（たらい）による天の川が横たわり、水底の鏡には上空に取り付けた「You are my sun-shine」の歌詞が映っている。こうして天体が交し合う大きな愛が、盥の中でスカートをたくし上げて水遊びをする人形や、９個の惑星が入った水槽などを包み込むという趣向であった。本展をとりあげた記事や来場者へのアンケートなどからは、藤城の真剣なまなざしや制作意図がかなり正確に理解されたことが窺われ、また愛知県美術館の企画の中で新鮮さを感じたと評価する声も寄せられた。

関連事業

友の会主催　会員対象の作家ギャラリー・トーク
２月19日　参加者50名

主要関連記事

吉住琢二「藤城凡子展　自然と人へ ラブレター」
『朝日新聞』2006年２月７日
高橋綾子「藤城凡子　ラブレター」
「木村直道＋遊びの美術　展」
『リア』№13　2006年４月

出品作品　８点

1	《gravitation（The Moon）》	2005年	アクリル・鉛筆、画布　130.5×162cm
2	《gravitation（The Earth）》	2005年	アクリル・鉛筆、画布　130.5×162cm
3	《milky way》	2005年	金盥、鏡、水ほか
4	《惑星》	2005年	シリコーン、人工珊瑚、天然石、砂、水槽　H45× W60× D45cm
5	《playing》	2005年	ミクストメディア
6	《flower on the hill》	2005年	ミクストメディア
7	《・・・》	2005年	ミクストメディア
8	《black hole》	2005年	ミクストメディア


藤城凡子氏　ギャラリー・トーク

移動美術館

教育普及活動の一環として、名古屋地域から遠隔にある県内各地に所蔵作品を移動展示し、併せて講演会などの事業を行う移動美術館を年１回開催している。これまで10回開催し、本年度は大口町で開催した。

第１回　1995年度　南知多町総合体育館・サブアリーナ
第２回　1996年度　足助町トレーニングセンター
第３回　1997年度　渥美町郷土資料館
第４回　1998年度　奥三河総合センター体育館（設楽町）
第５回　1999年度　吉良町農村環境改善センター
第６回　2000年度　新城文化会館
第７回　2001年度　立田村総合体育館
第８回　2002年度　高浜市やきものの里かわら美術館
第９回　2003年度　西尾市総合体育館
第10回　2004年度　蒲郡市博物館

名称：愛知県美術館　平成17年度　移動美術館「名画が町にやってきた」
主催：愛知県美術館、（財）愛知県文化振興事業団、大口町・大口町教育委員会
会期：平成17年11月３日（木・祝）～12月18日（日）〔34日間〕
会場：大口町歴史民俗資料館
観覧料：無料
担当学芸員：古田浩俊、馬渕美帆

観覧者数：5,692人（１日平均167人）



展示内容：

日本の洋画を中心に海外の作品を加えて展示。総点数32点。

1	エドワード=ジョン・ポインター	世界の若かりし頃	1891年
2	高橋　由一	厨房具	1878年頃
3	宮脇　晴	自画像	1920年
4	木村　荘八	壷を持つ少女	1915年
5	萬　鐵五郎	水郷風景	1926年
6	エミール=アントワーヌ・ブールデル	両手のベートーベン	1908年
7	山下　新太郎	白耳義の少女	1909年
8	黒田　清輝	花と猫	1906年
9	海老原　喜之助	雪山と樵	1930年
10	北川　民次	南国の花	1940年
11	岡　鹿之助	窓	1949年
12	小磯　良平	婦人像	1965年
13	鬼頭　鍋三郎	室内	1948年
14	鳥海　青児	石の街（ペルー　マチュ・ピチュ）	1961年
15	林　　武	ノートルダム	1960年
16	杉本　健吉	宇治川	1973年
17	村井　正誠	天使	1950年
18	難波田　龍起	萌	1961年
19	ジョーゼフ・アルバース	正方形頌	1962年
20	上田　薫	なま玉子G	1976年
21	堀内　正和	四角と丸の組み合わせb	1956年
22	平松　礼二	桜	1986年
23	川崎　小虎	四季草花図野菜絵巻　秋	1945年頃
24	川崎　小虎	四季草花図野菜絵巻　冬	1945年頃
25	パブロ・ピカソ	男と犬	1914年
26	パブロ・ピカソ	『変身物語』	1931年
27	ジャック・ヴィヨン	食卓	1913年
28	古賀　春江	川沿いの家	制作年不詳
29	村山　槐多	信州風景	1914-15年頃
30	藤島　武二	朝鮮服の女	制作年不詳
31	岸田　劉生	蓁	1918年
32	大沢　鉦一郎	自画像	1919年

教育普及行事：

記念講演会

「美術のたのしみ」村田真宏（愛知県美術館美術課長）

11月12日（土）午後1時30分～3時

健康文化センター4階　ほほえみホール

ギャラリー・トーク（展示解説）：

愛知県美術館学芸員が会場で展示作品の解説

一般向け

11月19日（土）、26日（土）

いずれも午後1時30分～2時30分まで

学校向け

大口町内の小・中学生の学校団体を中心に実施。



企画展

1992年度から2005年度までの企画展の入場者数（展覧会別）

年度	展覧会タイトル	会期		日数(日)	入場者数(人)	一日平均(人)
92年度	フォーヴィスムと日本近代洋画	92.10.30	92.12.20	45	41,343	919
	近代の日本画－西洋との出会いと対話	93.01.05	93.02.11	33	26,166	793
	20世紀愛知の美術	93.02.19	93.03.21	27	11,585	429
	年度合計			105	79,094	753
93年度	パウル・クレーの芸術	93.04.02	93.05.23	45	103,239	2,294
	小川芋銭展	93.06.04	93.07.04	27	26,106	967
	現代の陶芸1950-1990展	93.07.16	93.08.22	33	13,153	399
	安田靫彦展	93.09.03	93.10.17	39	43,003	1,103
	リール市美術館所蔵－バロック・ロココの絵画	93.10.29	94.01.16	63	47,042	747
	戸張孤雁と大正期の彫刻	94.01.25	94.03.06	36	7,996	222
	色彩の宇宙　クプカ展	94.03.18	94.05.08	45	33,652	748
	年度合計			288	274,191	952
	累計			393	353,285	899
94年度	杉本健吉展	94.05.14	94.06.02	17	19,568	1,151
	シカゴ美術館展－近代絵画の100年－	94.06.10	94.07.24	38	89,204	2,348
	レジェ展	94.08.05	94.09.11	33	22,793	691
	聖なるかたち　後期ゴシックの木彫と板絵－アーヘン市立ズエルモント＝ルードヴィヒ美術館所蔵	94.09.23	94.11.03	37	27,976	756
	没後20年　香月泰男展	94.11.18	95.01.16	46	27,164	591
	アンドリュー・ワイエス展－アメリカの郷愁　心の風景を描く	95.02.03	95.04.02	51	120,177	2,356
	年度合計			222	306,882	1,382
	累計			615	660,167	1,073
95年度	ウィーンのジャポニスム	95.04.11	95.05.14	30	27,803	927
	フランツ・ゲルチュ	95.05.26	95.07.02	33	22,392	679
	還流－日韓現代美術展	95.07.14	95.09.03	45	25,072	557
	ウィンザー城王立図書館所蔵レオナルド・ダ・ヴィンチ人体解剖図	95.09.15	95.10.15	27	68,439	2,535
	表現主義彫刻	95.10.27	96.01.15	64	12,428	194
	リチャード・マイヤーとフランク・ステラ－建築と絵画の接点	96.02.02	96.04.07	57	16,599	291
	年度合計			256	172,733	675
	累計			871	832,900	956
96年度	大英博物館所蔵イタリア素描展	96.04.19	96.05.26	33	30,973	939
	抽象表現主義展－アメリカ黄金期の絵画	96.07.26	96.09.16	46	19,005	413
	富岡鉄斎展－理想郷を語る	96.09.27	96.11.10	39	25,680	659
	北川民次展－愛と人間をえがく	96.11.22	97.01.26	51	28,789	565
	カンディンスキーとミュンター　愛と創造の日々　1901-1917	97.02.08	97.03.16	32	22,891	715
	没後50年　ボナール展	97.03.28	97.05.18	45	54,094	1,202
	年度合計			246	181,432	738
	累計			1,117	1,014,332	908
97年度	理智と幻想のシュルレアリスト　北脇　昇展	97.05.30	97.07.13	39	15,951	409
	モダンデザインの父　ウィリアム・モリス展	97.07.25	97.08.31	33	54,835	1,662
	20世紀美術の冒険　-セザンヌ、ファン・ゴッホから現在まで-アムステルダム市立美術館コレクション展	97.09.12	97.11.03	46	31,750	690
	イタリア美術　1945-1995－見えるものと見えないもの	97.11.14	98.01.15	48	16,739	349
	近代美術の100年－愛知県美術館コレクションの精華－	98.01.30	98.03.08	33	17,985	545
	川合玉堂展　－めぐりゆく季節－	98.03.20	98.05.05	41	70,936	1,730
	年度合計			240	208,196	868
	累計			1,357	1,222,528	901
98年度	久野真・庄司達展－鉄の絵画と布の彫刻－	98.05.15	98.06.07	21	10,236	487
	ナイアガラの虹を越えて…オルブライト＝ノックス美術館展名画への誘い	98.06.19	98.08.02	39	66,342	1,701
	生誕100年記念佐伯祐三展	98.08.16	98.09.27	37	39,972	1,080

年度	展覧会タイトル	会期		日数(日)	入場者数(人)	一日平均(人)
98年度	アルトゥング展	98.10.9	98.12.13	57	18,845	331
	没後50年松本竣介展	99.01.08	99.02.21	39	24,551	630
	ブッサンとラファエッロ　借用と創造の秘密	99.03.05	99.04.11	33	13,387	406
	年度合計			226	173,333	767
	累　計			1,583	1,395,861	882
99年度	魔法の庭…詩とかたちのフーガ「ファウスト・メロッティ展」	99.04.23	99.06.13	45	13,614	303
	前田寛治の芸術　－詩情と造形－	99.07.02	99.08.22	45	14,851	330
	危機の時代と絵画　1930－1945	98.09.03	98.10.17	39	8,379	215
	生誕100年　関根正二展	99.10.29	99.12.12	39	22,719	583
	セザンヌ展	00.01.05	00.03.12	59	171,060	2,899
	年度合計			227	230,623	1,016
	累　計			1,810	1,626,484	899
00年度	レンブラント・フェルメールとその時代アムステルダム国立美術館所蔵17世紀オランダ美術展	00.04.07	00.06.18	63	104,226	1,654
	田中恭吉展	00.07.15	00.08.27	38	22,788	600
	加納光於展	00.09.15	00.11.05	45	11,606	258
	アメリカン・ドリームの世紀展	00.11.23	01.01.28	52	25,390	488
	岸田劉生展	01.02.09	01.04.01	45	38,752	861
	年度合計			243	202,762	834
	累　計			2,053	1,829,246	891
01年度	メルツバッハー・コレクション展	01.04.13	01.05.27	39	47,245	1,211
	ロダンと日本	01.06.22	01.08.19	51	57,339	1,124
	バックミンスター・フラー展	01.09.14	01.11.04	45	10,962	244
	ポンペイ展	02.02.08	02.04.07	51	101,367	1,988
	年度合計			186	216,913	1,166
	累　計			2,239	2,046,159	914
02年度	開館10周年記念大英博物館所蔵フランス素描展	02.04.26	02.06.30	57	25,638	450
	開館10周年記念韓国の色と光	02.07.26	02.09.23	52	10,652	205
	開館10周年記念ミロ展	02.10.04	02.12.01	51	83,084	1,629
	開館10周年記念中西夏之展	02.12.20	03.02.23	51	14,525	285
	年度合計			211	133,899	635
	累　計			2,450	2,180,058	890
03年度	菱田春草展	03.04.11	03.05.18	33	53,578	1,624
	戸谷成雄森の襞の行方	03.06.06	03.07.27	45	12,934	287
	レオン・スピリアールト展	03.08.05	03.09.23	43	15,674	365
	空海と高野山	03.10.10	03.11.24	40	109,612	2,740
	中村彝の全貌展	04.01.06	04.02.29	48	20,004	417
	年度合計			209	211,802	1,013
	累　計			2,659	2,391,860	900
04年度	ベン・ニコルソン展	04.04.09	04.05.23	39	10,855	278
	野見山暁治展	04.06.04	04.07.19	40	7,310	183
	国吉康雄展	04.08.06	04.09.26	45	24,702	549
	木村定三コレクションによる熊谷守一展	04.10.08	04.12.05	51	17,555	344
	自然をめぐる千年の旅	05.03.11	05.05.08	51	63,052	1,236
	年度合計			226	123,474	546
	累　計			2,885	2,515,334	872
05年度	アジアの潜在力　―海と島が育んだ美術―	05.05.24	05.07.10	42	8,109	193
	ゴッホ美術館、クレラー＝ミュラー美術館所蔵作品によるゴッホ展　―孤高の画家の原風景―	05.07.26	05.09.25	54	423,745	7,847
	生誕100年記念　吉原治良展	05.12.16	06.02.26	57	12,651	222
	江戸絵画　―小世界を愉しむ―　木村定三コレクションの近世絵画	06.03.10	06.05.07	63	14,260	226
	年度合計			216	458,765	2,124
	累　計			3,101	2,974,099	959

2005(平成17)年度の企画展開催状況

『アジアの潜在力－海と島が育んだ美術』

会　期　2005年５月24日(火)～７月10日(日)

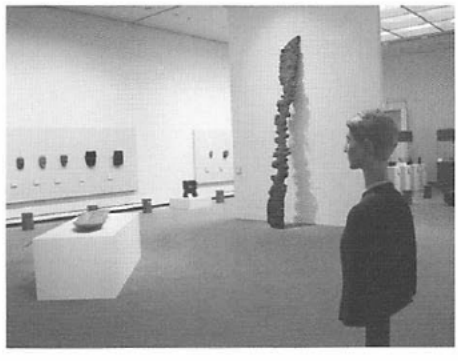
主　催　愛知県美術館／日本経済新聞社／テレビ愛知／財団法人2005年日本国際博覧会協会／財団法人自治総合センター

後　援　愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会

担当学芸員　市川政憲、拝戸雅彦、高橋秀治、村田真宏

総入場者数：8,109人（１日平均入場者数：193人）





内容と結果　出品点数：182点

アジアといっても、この展覧会は、東アジア島嶼部であるインドネシア、台湾、日本やベトナム、タイ、マレーシア、カンボジアなど、古代より海上交易によって結ばれていた地域を対象とした。中国や韓国、インドに代表される大陸的な文化に対抗するかのようにして存在する、この地域の造形のなかに共通する感性を、時間軸を越えて見出そうとしたものである。

その観点にたって、「彫る」「染める」「型取る・肉付ける」という基本的な技法に注目した。縄文土器やタイのバンチェン焼などの古代の造形物から、インドネシアやマレーシアなどの染織品などの工芸、円空や木喰などの近代以前の彫刻、橋本平八や高村光太郎などの近代美術、そして海外の作家を含めた現代美術まで幅広いジャンルの作品を選び、この地域に豊かに育まれていった造形を幅広く、しばしば冒険的に紹介した。

現代工芸の専門家である樋田豊次郎氏をゲストキュレータに迎え、館長の市川、担当の学芸員が、作家作品をセレクトした。その結果、前近代と近代の境界域、美術と工芸の境界域、そして美術と自然の境界域にも批評的に踏み込む、作品のセレクションとなった。また、手仕事的な技法的観点を重視したために洗練さを欠く荒削りにも見えたアジアの美術でありながら、作品一点一点を個として映えるような展示を心がけることで、アジアの美術をプリミティヴなものと見なす欧米的な先入観に満ちた鑑賞者の視線を裏切る展示となり、刷り込まれたアジア像とは異なるアジア的造形力を示すことが出来た。現在から過去に遡っていく展示もまた不思議な印象を与えたことを付け加えておく。峯村氏をはじめとする、新聞や雑誌での記事がこの展覧会に対する好意的な評価を証明している。あえて問題点を言えば、一般の鑑賞者が抱くアジアに対する強い先入観を覆すほどに刺激的な広報が出来ず、入場者数が伸び悩んだということであろうか。

展覧会カタログ：

Ｂ５判変形（タテ26×ヨコ19cm）　244ページ

編　集　拝戸雅彦、高橋秀治、村田真宏

発　行　愛知県美術館、日本経済新聞

関連事業：

○記念講演会

2005年６月４日（土）　午後１時30分から

講　師：樋田豊次郎（京都工芸繊維大学教授）

演　題：「島国の美術」84名

2005年６月26日（日）　午後１時30分から

講　師：舟越桂（アジアの潜在力出品作家）

演　題：「現代作家　自作を語るシリーズ３」247名

○学芸員による展示説明会（ギャラリー・トーク）

第１回　2005年５月26日（木）　午前11時から

講　師：市川政憲　５名

第２回　2005年６月10日（金）　午後６時から

講　師：村田真宏　15名

第３回　2005年６月14日（火）　午前11時から

講　師：高橋秀治　20名

第４回　2005年６月23日（木）　午前11時から

講　師：拝戸雅彦　17名

○小・中・高の先生方との鑑賞学習交流会

2005年６月４日（土）午後３時から

講　師：高橋秀治　22名

○友の会会員のための特別鑑賞会

2005年５月26日（木）　午後５時30分から

講　師：市川政憲　30名

2005年６月２日（木）　午前10時30分から

講　師：市川政憲　７名

主要関連記事：

【新聞】

秋山亮太　「水の記憶　形に」

『朝日新聞』朝刊2005年６月14日

高　満津子（岐阜県現代陶芸美術館学芸員）

「手に汗握る人間の技と知恵」

『中日新聞』夕刊2005年６月15日

田中三蔵　「アジアの潜在力　海と島が育んだ美術」

『朝日新聞』夕刊2005年６月20日

峯村敏明（多摩美術大学教授）

「造形の源流を見すえた好企画」

『毎日新聞』夕刊　2005年６月23日

山脇佐江子（美術史家）

「モノを生み出そうとする力」

『日本経済新聞』夕刊　2005年７月７日

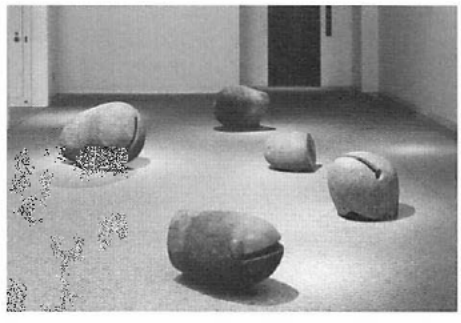
前田恭二　「手わざの生命力実感」

『読売新聞』夕刊2005年７月７日

【雑誌】

稲賀繁美　「〈舟〉としての島々と母胎としての海」

『あいだ』115号



ゴッホ美術館、クレラー＝ミュラー美術館所蔵作品による

『ゴッホ展　―孤高の画家の原風景―』

会　期　2005年７月26日（火）～９月25日（日）

主　催　愛知県美術館／中日新聞社／ＮＨＫ名古屋放送局／ＮＨＫ名古屋中部プレーンズ／（財）2005年日本国際博覧会協会

後　援　外務省／文化庁／オランダ大使館

協　力　日本航空／日本通運

担当学芸員　村上博哉、藤島美菜、森美樹、木本文平

総入場者数：423,745人（1日平均入場者数：7,847人）

内容と結果　出品点数127点

オランダのファン・ゴッホ美術館とクレラー＝ミュラー美術館の所蔵作品を中心に、フィンセント・ファン・ゴッホ（1853－1890）の代表的な作品を紹介するとともに、彼の芸術の文化的背景を示すことを狙いとした。

展覧会は、ファン・ゴッホの油彩画30点のほか、ミレーや印象派、ゴーギャン、シニャック、ベルナールなどの、ファン・ゴッホが影響を受けた画家や交流をもった画家たちの作品30点、及び複製版画、浮世絵、書籍、雑誌などの関連資料約60点により構成された。日本初公開の《芸術家としての自画像》（ファン・ゴッホ美術館）、《黄色い家》（ファン・ゴッホ美術館）、約半世紀振りの日本への出品となった《夜のカフェテラス》（クレラー＝ミュラー美術館）などの代表作に加え、名古屋会場には、同時期に開催された日本国際博覧会を記念して、日本国内所蔵の作品である《ひまわり》（損保ジャパン東郷青児美術館）が期間を限定して特別に出品された。また、近代オランダの神学文化を代表する書籍などの関連資料の展示は、ファン・ゴッホの思想・イメージ形成の源泉を示す貴重な機会となった。

作家の知名度に加えてこのような出品作の質の高さが話題を呼び、当館の過去最高の入場者数を記録した。とりわけ小・中学生の入場者が約４万人、総入場者の約１割に及んだことが注目される。平成16年度から実施している小・中学生の企画展観覧料無料化の効果が本展に表れ、とくに夏休み期間中の親子あるいは家族での来場を促し、一般入場者の増加につながったと考えられる。加えて、連日過去に経験したことのない数の入場者を迎え、展示室内の二酸化炭素濃度の計測や人員整理など、作品および入場者保護の観点から、美術館スタッフ一同が綿密な対応を行った。

展覧会カタログ：

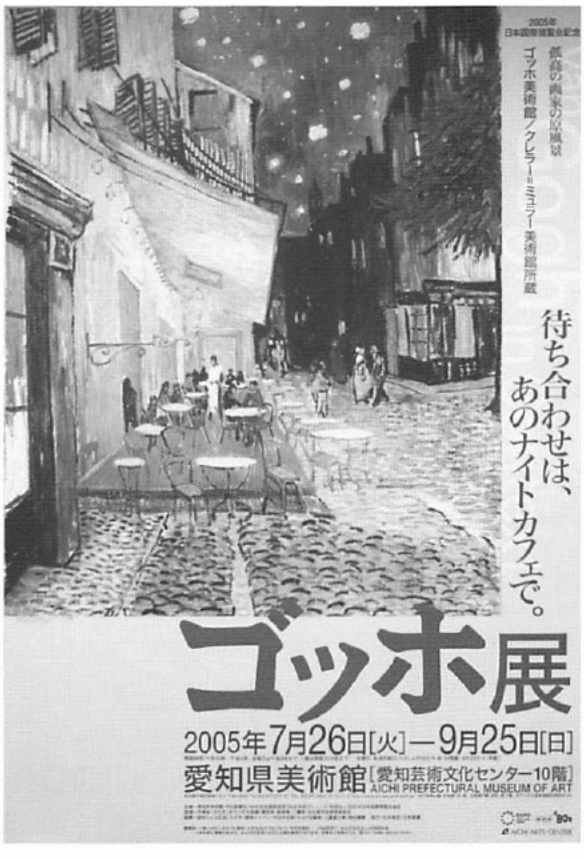
Ａ４判変形（タテ28.5×ヨコ23.2cm）　224ページ

編　集　東京国立近代美術館／国立国際美術館／愛知県美術館／東京新聞

発　行　ＮＨＫ／ＮＨＫプロモーション／中日新聞社

カタログ補遺（英語版テキスト）：

Ａ４判変形（タテ28.5×ヨコ22.6cm）　40ページ





関連事業：

○記念講演会　2005年８月27日（土）　午後１時30分から

講　師：囲府寺司（大阪大学教授）

演　題：「ファン・ゴッホをめぐる〈物語〉の系譜」　240名

○学芸員による展示説明会（スライド・トーク）

第１回　2005年８月２日（火）　午後1時30分から

講師：村上博哉　147名

第２回　2005年８月２日（火）　午後2時45分から

講師：村上博哉　60名

第３回　2005年８月10日（水）　午後1時30分から

講師：村上博哉　200名

第４回　2005年８月10日（水）　午後2時45分から

講師：村上博哉　60名

第５回　2005年９月１日（木）　午後1時30分から

講師：村上博哉　65名

第６回　2005年９月１日（木）　午後2時45分から

講師：村上博哉　23名

第７回　2005年９月６日（火）　午後1時30分から

講師：藤島美菜　110名

第８回　2005年９月６日（火）　午後2時45分から

講師：村上博哉　51名

○小・中・高の先生方との鑑賞学習交流会

2005年８月27日（土）　午後３時30分から

講　師：藤島美菜　64名

○友の会会員のための特別鑑賞会

2005年８月４日（木）　午後5時30分から

講　師：村上博哉　60名

2005年８月８日（月）　午前10時30分から

講　師：村上博哉　61名

巡回先：

東京国立近代美術館

519,987人（１日平均入場者数：8,666人）

国立国際美術館

360,614人（１日平均入場者数：8,386人）

主要関連記事：

【新聞】

森村陽子　「ゴッホの素顔（６回連載）」

『中日新聞』朝刊2005年７月13日～18日

黒川紀章　「連載１、芸術家としての自画像」

『中日新聞』夕刊2005年７月26日

馬渕明子　「連載２、花魁」

『中日新聞』夕刊2005年７月27日

太田治子　「連載３、黄色い家」

『中日新聞』夕刊2005年７月28日

香山リカ　「連載４、サン＝レミの療養院の庭」

『中日新聞』夕刊2005年８月１日

高橋克彦　「連載５、糸杉と星の見える道」

『中日新聞』夕刊2005年８月２日

島田章三　「連載６、夜のカフェテラス」

『中日新聞』夕刊2005年８月３日

篠原有司男　「連載７、ひまわり」

『中日新聞』夕刊2005年８月４日

羽生のり子　「ゴッホとゴーギャン」

『中日新聞』夕刊2005年８月18日

栗田秀法　「軌跡たどり素顔に迫る」

『朝日新聞』朝刊2005年８月23日

「強烈な個性の裏に弱さと繊細さ秘め」

『日本経済新聞』夕刊2005年９月８日



『生誕100年記念　吉原治良展』

会　期　2005年12月16日（金）～2006年2月26日（日）
主　催　愛知県美術館／朝日新聞社
後　援　愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会
特別協力　大阪市立近代美術館建設準備室／芦屋市立美術博物館
担当学芸員　森美樹、拝戸雅彦、高橋秀治
総入場者数：12,651人（１日平均入場者数：222人）





内容と結果　出品点数192点

本展は、関西に集結した美術家集団＜具体美術協会＞のリーダー像が先行しがちな吉原治良の、画家としての活動に焦点をあて、再評価を試みた展覧会である。戦時中に疎開先で制作された特異な小作品を含む、初期から晩年までの油彩作品を中心に約180点を展示して、画家吉原治良のあくなき制作意欲に富む、多面的な創造の軌跡をたどった。14歳のとき独学で油絵を始めた吉原は、魚のモティーフから形而上学的なイメージへと主題の変遷を経て、1930年代の後半には、純粋抽象表現に取り組む前衛美術の先駆者のひとりとなる。戦後、人物を描くことから出発した吉原は、次第に造形とマティエールの問題に向かい、1954年の「具体」結成のころからは、若手の型破りな手法に触発され、激しいストロークと絵具の物質性を露わにした、アンフォルメル表現を獲得する。そしてこれら数々の試みの末に、代表作となるカンヴァス一杯に描かれた「円」が誕生した。このように具象と抽象を行き来しながら、何度となく大きく転換する作風は、多くの鑑賞者の方に強烈な印象を残し、美術史専門家から一般の方まで幅広く好評を得た。

展覧会カタログ：
Ａ４変形（タテ27.5×ヨコ21.5cm）248ページ
編　集　大阪市立近代美術館建設準備室／愛知県美術館／東京国立近代美術館／宮城県美術館／朝日新聞社
発　行　朝日新聞社

関連事業：

○記念講演会

2006年１月21日(土)　午後１時30分から

講　師：元永定正（作家）

演　題：「吉原治良と具体」　102名

2006年２月４日(土)　午後１時30分から

講　師：熊田司

（大阪市立近代美術館建設準備室　研究主幹）

演　題：「画家吉原治良、その知られざる側面」　73名

○学芸員による展示説明会（ギャラリー・トーク）

第１回　2006年１月15日(日)　午前11時から

講　師：拝戸雅彦　21名

第２回　2006年１月28日(土)　午前11時から

講　師：拝戸雅彦　17名

第３回　2006年２月12日(日)　午前11時から

講　師：森美樹　15名

第４回　2006年２月19日(日)　午前11時から

講　師：森美樹　23名

○小・中・高の先生方との鑑賞学習交流会

2006年２月４日(土)　午後３時から

講　師：森美樹　51名

○友の会会員のための特別鑑賞会

2006年１月12日(木)　午後５時30分から

講　師：森美樹　30名

2006年１月19日(木)　午前10時から

講　師：森美樹　31名

○その他

文化情報センター・ゼミナール「現代アートを横断する」

「生誕100年記念　吉原治良展」鑑賞会

2006年１月13日(金)　午後６時15分から

講　師：森美樹　23名

フォーラムイベント「身体が跳ねる、音楽が踊る」

2006年２月19日(日)　午後２時から

ダンス：岡登志子

音　楽：稲田誠（コントラバス）、松井一平（ギター）、

亀山津雄（ドラム）

270名

巡回先：

ＡＴＣミュージアム　4,266人（１日平均入場者数：164人）

東京国立近代美術館　19,020人（１日平均入場者数：453人）

宮城県美術館　7,704人（１日平均入場者数：138人）

主要関連記事：

【新聞】

森本俊司　「独自貫く美の旅人」

『朝日新聞』朝刊2005年12月15日

日沖　隆　「戦後日本の前衛美術史に」

『名古屋タイムズ』2006年１月11日

前田恭二　「独創性の陰に熟慮と実験」

『読売新聞』夕刊2006年１月12日

浅野　徹　「初期の俯瞰構図に新鮮さ」

『中日新聞』夕刊2006年２月１日

【雑誌】

「13年ぶりの大回顧展」

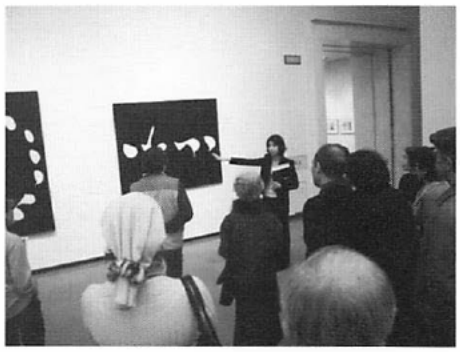
『美術手帖』2006年１月号

中村英樹　「とらえがたい彼方と向き合う力を求めて」

『美術手帖』2006年３月号

山脇一夫　「吉原治良展」

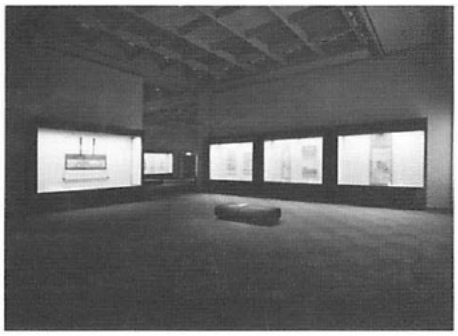
『リア』Ｎｏ.13　2006年４月



『木村定三コレクションの江戸絵画　―小世界を愉しむ―』

会　期　2006年３月10日(金)～５月21日(日)
主　催　愛知県美術館／日本経済新聞社／テレビ愛知
後　援　愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会
担当学芸員　馬渕美帆、深山孝彰、村田真宏
総入場者数：14,260人（１日平均入場者数：226人）
2005年度内　3,463人（1日平均：165人）





内容と結果　出品点数119点

本展では、木村定三コレクションの中でも特に重要なまとまりのひとつである、江戸絵画の作品群を初めて一堂に展観した。同コレクションの江戸絵画としては、寄贈前から、重要文化財６点（与謝蕪村1点、浦上玉堂５点）をはじめとする一部の作品が知られていたが、全体像は不明であった。本展は、その全貌を初めて一般に公開するもので、ほとんどの作品が初公開であり、専門家にも高い評価を得た。

木村定三コレクションには、よく知られた文人画ばかりでなく、伊藤若冲など江戸時代を代表する多様な画家の作品が含まれており、コレクションにより当時の画壇を眺めわたすことができる。本展では、画家の主な活動地により、展示作品を当時特色ある文化圏を形成していた地域別に分け、「江戸とその周辺」「上方」「博多」「名古屋」の4章で展示を構成した。これにより、狩野派が活躍し、浮世絵が発達した江戸、個性的な画家がしのぎを削った京都、京都と深い関わりを持ちつつ温雅な画風を展開させた名古屋など、各地域の特色を浮き彫りにすることができた。展示室では画家の活動地を詳しく示す鑑賞ガイドを配布したほか、大部分の作品に解説を付し、わかりやすいとの感想を多く得た。まとめて展示される機会の少ない地元名古屋の画家の作品が多く展示できたことも好評を得た。また展覧会に合わせて、『熊谷守一　木村定三コレクション』に続く木村定三コレクションの部門別図録『江戸絵画　木村定三コレクション』を刊行し、ほぼすべての出品作品に解説を付した。

江戸絵画部門の初公開展であるため、展示替は前後期で状態の悪いものなど約10点ずつに留め、重要な作品は会期を通じて展示した。また、江戸絵画を身近なものとして鑑賞できるようにするため、当館における新たな試みとして、一部の作品について江戸絵画では珍しいガラスのない展示ケースによる露出展示を行い、見やすく作品に親しみが持てると好評を得た。

展覧会カタログ：

Ｂ５判変形（タテ26×ヨコ19cm）　144ページ

編　集　馬渕美帆、深山孝彰

発　行　愛知県美術館

関連事業：

○記念講演会

2006年３月25日(土)　午後１時30分から

講　師：小林忠（学習院大学教授）

演　題：「木村定三コレクションの江戸絵画」　113名

○学芸員による展示説明会（ギャラリー・トーク）

第１回　2006年３月31日(金)　午前11時から

講　師：馬渕美帆　16名

第２回　2006年４月15日(土)　午前11時から

講　師：村田真宏　16名

第３回　2006年４月20日（木）　午前11時から

講　師：村田真宏　13名

第４回　2006年４月29日（土）　午前11時から

講　師：深山孝彰　21名

第５回　2006年５月７日(日)　午前11時から

講　師：馬渕美帆　12名

第６回　2006年５月19日(金)　午前11時から

講　師：深山孝彰　32名

○小・中・高の先生方との鑑賞学習交流会

2006年４月22日(土)　午後３時30分から

講　師：深山孝彰　34名

○友の会会員のための特別鑑賞会

2006年３月16日(木)　午後５時30分から

講　師：馬渕美帆　27名

2006年３月23日(木)　午前10時30分から

講　師：馬渕美帆　20名

○その他

愛知県図書館企画展示関連講演会

2006年４月22日(土)　午後２時から

会　場：愛知県図書館 AV ホール

講　師：馬渕美帆

演　題：「小世界への招待」　25名

主要関連記事：

【新聞】

「探幽 若冲 蕪村 玉堂ら
　木村定三コレクションの江戸絵画展」
『読売新聞』2006年３月11日

「地域別に展示、違い楽しむ」
『日本経済新聞』夕刊2006年３月16日

遠藤恒雄　「浮世絵水墨画・・・初公開の120点」
『名古屋タイムズ』2006年３月24日

「木村定三コレクション江戸絵画展初公開」
『毎日新聞』2006年3月26日

山脇佐江子　「２つの木村定三コレクション展」
『日本経済新聞』夕刊2006年４月13日

【雑誌】

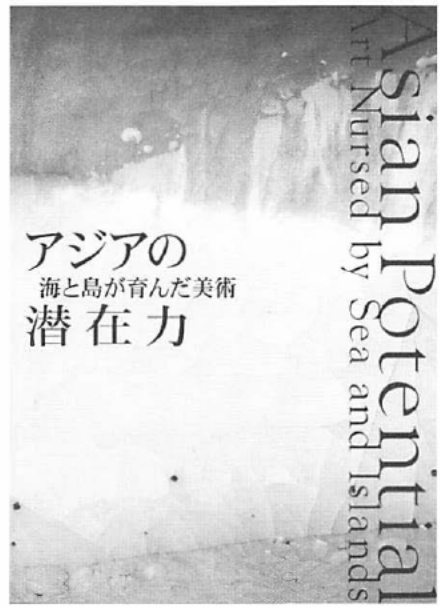
「軽い近しい面白い
　知られざる江戸絵画お蔵出し」
『芸術新潮』2006年５月号



教育普及

出版・発行

各企画展カタログ



○『アジアの潜在力—海と島が育んだ美術』展 カタログ

26.0×19.0cm　244ページ

監修　樋田豊次郎（京都工芸繊維大学助教授）

総括　市川政憲（愛知県美術館）

編集　拝戸雅彦／高橋秀治／村田真宏（愛知県美術館）

発行　愛知県美術館／日本経済新聞

制作　印象社

本文　海から川へ　市川政憲

日本人のアジア美術認識を踏まえて　樋田豊次郎

図版

Ⅰ　彫る

Carving

Ⅱ　染める

Dyeing

Ⅲ　型取る、肉づける

Molding, Modeling

会場風景

作家解説　樋田豊次郎・市川政憲・拝戸雅彦・高橋秀治・村田真宏

出品目録

From the Ocean to the River　ICHIKAWA Masanori

The Japanese Understanding of Asian Art: The Need for Revision HIDA Toyojiro

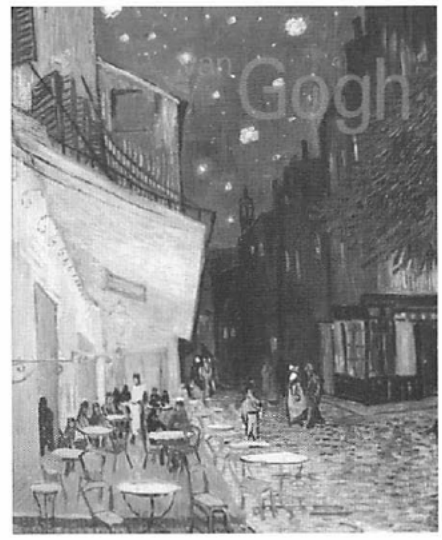
○『アジアの潜在力—海と島が育んだ美術—』展 カタログ小冊子

26.0×19.0cm　24ページ

本文　海から川へ　市川政憲

日本人のアジア美術認識を踏まえて　樋田豊次郎

出品目録



○『ゴッホ展—孤高の画家の原風景—』カタログ

28.5×23.2cm　224ページ

編集　東京国立近代美術館／国立国際美術館／愛知県美術館／東京新聞

発行　NHK／NHKプロモーション／中日新聞

制作　コギト

本文　序　ファン・ゴッホを美術展で歴史的コンテクストとともに語ること

圀府寺司

フィンセント・ファン・ゴッホは「孤高の画家」だったのか

エフェルト・ファン・アイテルト

図版

Ⅰ．宗教から芸術へ　圀府寺司

Ⅱ．農民の労働、芸術のメタファー　藤島美菜

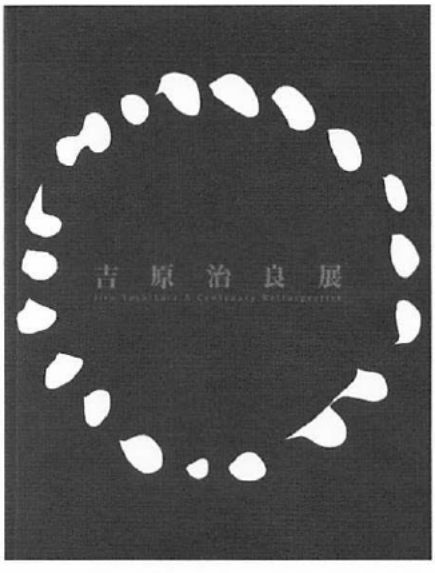
Ⅲ．パリ－圏から光へ　三輪健仁

Ⅳ．アルル－ユートピア　保坂健二朗
Ⅴ．サン=レミ、オーヴェール=シュル=オワーズ　村上博哉

ファン・ゴッホ：風景画の諸相　クリス・ストルウェイク
ヘレーネ・クレラー=ミュラーと彼女のファン・ゴッホ・コレクション
ピート・ド・ヨンゲ
美術館紹介―ファン・ゴッホ美術館／クレラー=ミュラー美術館
年譜　藤島美菜編
文献　藤島美菜編
作家別索引

○『ゴッホ展―孤高の画家の原風景―』カタログ補遺（英語版テキスト）
28.5×22.6cm　40ページ
Foreword: Exhibiting van Gogh in a Historical Narrative Context　Tsukasa Kodera
Vincent van Gogh: a not so isolated artist　Evert van Uitert
On Some Aspects of Van Gogh's Landscapes　Chris Stolwijk
Helene Kröller-Müller and her Vincent van Gogh collection　Piet de Jonge

○『生誕100年記念　吉原治良展』カタログ



27.5×21.5cm　240ページ
編集　大阪市立近代美術館建設準備室／愛知県美術館／東京国立近代美術館／宮城県美術館／朝日新聞社
発行　朝日新聞社
制作　株式会社ＤＮＰメディアクリエイト関西
本文　吉原治良―物質を切り裂く線の軌跡、あるいは一本の道―　熊田司
Jiro Yoshihara: The Trajectory of a Line Cutting Across a Material, or Single Path　Tsukasa Kumada
吉原治良―マティエール・平面化・円・美術史　拝戸雅彦
吉原治良研究とこれから　大谷省吾
作品《風景》と1935年頃の吉原治良　和田浩一
図版
1　初期作品　窓辺と室外の風景　1923-29　高柳有紀子
Chapter 1　Early Works: Landscapes Beside and Outside the Window: 1923-1932
2　形而上学的イメージと純粋抽象　1930-39　和田浩一
Chapter 2　Metaphysical Images and Pure Abstraction: 1930-1940
3　戦時中の絵画　二つの風景　1940-45　大谷省吾
Chapter 3　Wartime Paintings: Two Landscapes: 1940-1945
4　鳥と人、そして線的抽象　1946-54　松本透
Chapter 4　Birds and People, and Linear Abstractions: 1946-1954
5　具体の誕生、アンフォルメルの時代へ　1955-65　森美樹
Chapter 5　The Birth of Gutai - Toward Art Informel: 1954-1962
6　「円」とその後　1965-72　拝戸雅彦
Chapter 6　Circles and Afterward: 1963-1972
文献目録　大谷省吾編

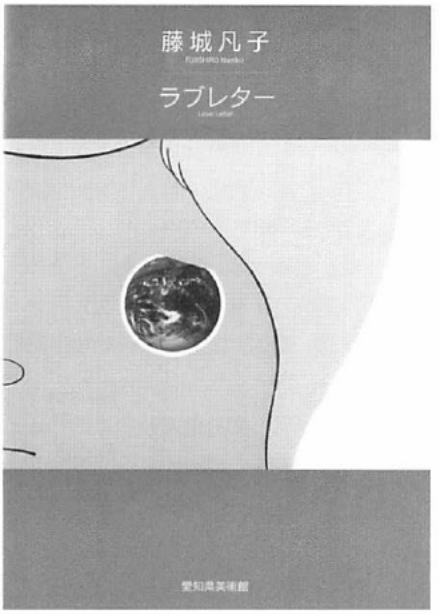
出品展覧会記録　大谷省吾編
年譜　吉原治良研究会編
出品目録　森美樹／高柳有紀子編

○『江戸絵画　木村定三コレクション』
26.0×19.0cm　144ページ
編集　馬渕美帆／深山孝彰（愛知県美術館）
発行　愛知県美術館
制作　印象社
本文　木村定三コレクションの江戸絵画　小林忠
図版
江戸とその周辺
名古屋
上方
博多
作家・作品解説
掲載作品目録
Painting of the Edo Period from the KIMURA TEIZO Collection
List of Plates





○テーマ展（小企画展）
『藤城凡子　ラブレター』冊子
29.6×21cm　8ページ
編集　愛知県美術館／深山孝彰
本文　藤城凡子と私たちの宇宙　深山孝彰
図版



所蔵作品展に関するもの

第Ⅰ期　前期	展示品リスト	A４判
第Ⅰ期　後期	展示品リスト	A４判
第Ⅱ期	『愛知県美術館開館50周年記念展　コレクションでたどる美術館50年の歩み』展示品リストおよび解説	A４判
第Ⅲ期　前期	展示品リスト	A４判
第Ⅲ期　後期	展示品リスト	A４判

企画展鑑賞の手引き等

《アジアの潜在力―海と島が育んだ美術―》展	
鑑賞ガイド（全体と主要テーマ、および用語の解説）	A４判６頁
《ゴッホ展―孤高の画家の原風景―》	
鑑賞ガイド（全体と主要テーマの解説、年譜）	A４判４頁
子供向けガイド	A４判４頁
《生誕100年記念　吉原治良展》	
鑑賞ガイド（全体と主要テーマの解説）	A４判４頁
《江戸絵画―小世界を愉しむ―》	
鑑賞ガイド（全体と主要テーマの解説）	B５判４頁

講演会等

企画展記念講演会

企画展ごとに研究者や作家あるいは学芸員などが記念講演会を行なった。各講演会とも関心が高かった。

『アジアの潜在力』記念講演会

・演題「島国の美術」　6月4日(土)　午後1時30分から
講師　樋田豊次郎（京都工芸繊維大学教授）　聴講者数84名


樋口豊次郎氏

『ゴッホ展―孤高の画家の原風景―』記念講演会

・演題「ファン・ゴッホをめぐる〈物語〉の系譜」　8月27日(土)　午後1時30分から
講師　圀府寺司（大阪大学教授）　聴講者数240名


圀府寺司氏

『生誕100年記念　吉原治良展』記念講演会

・演題「吉原治良と具体」　1月21日(土)　午後1時30分から
講師　元永定正（作家）　聴講者数102名


元永定正氏

・演題「画家吉原治良、その知られざる側面」　2月4日(土)　午後1時30分から
講師　熊田司（大阪市立近代美術館建設準備室　研究主幹）　聴講者数73名

『木村定三コレクションの江戸絵画―小世界を愉しむ―』記念講演会

・演題「木村定三コレクションの江戸絵画」　3月25日(土)　午後1時30分から
講師：小林忠（学習院大学教授）　聴講者数113名


熊田司氏

座談会

・演題「愛知県美術館のコレクションと今後への展望」
11月5日(土)　午後1時30分から
司　会　牧野研一郎（愛知県美術館副館長）
報告1　「愛知県文化会館美術館のコレクション」
報告者　木本文平（愛知県美術館企画普及課長）
報告2　「愛知県美術館のコレクション」
報告者　村田真宏（愛知県美術館美術課長）
座談会　浅野徹（名古屋芸術大学教授）
中村英樹（名古屋造形芸術大学教授）
宮崎玲子（愛知県美術館友の会会長）
市川政憲（愛知県美術館長）　聴講者数75名


小林忠氏


座談会

レクチャー&トーク

「現代作家　自作を語る」

所蔵作品の紹介にも重点をおくように、所蔵作品のうち、とくに現存作家に自らの制作活動や作品について語ってもらうシリーズを昨年度に引き続き開催した。

シリーズ③　6月26日(日)　午後1時30分から
講師：舟越桂（彫刻家・アジアの潜在力出品作家）　聴講者数247名

シリーズ④　10月8日(土)　午後1時30分から
講師：加藤昭男（彫刻家）　聴講者数55名

シリーズ⑤　10月15日(土)　午後1時30分から
講師：堀　浩哉（画家）　聴講者数31名


自作を語る③　舟越桂氏


自作を語る④　加藤昭男氏


自作を語る⑤　堀浩哉氏

学芸員による展示説明会（ギャラリー・トーク）

企画展ごとに担当学芸員が展示室において展示説明会を1時間行なっている。

・『アジアの潜在力－海と島が育んだ美術』展示説明会

第1回	5月26日(木)	午前11時から	講師　市川政憲	聴講者数5名
第2回	6月10日(金)	午後6時から	講師　村田真宏	聴講者数15名
第3回	6月14日(火)	午前11時から	講師　高橋秀治	聴講者数20名
第4回	6月23日(木)	午前11時から	講師　拝戸雅彦	聴講者数17名

・『ゴッホ展―孤高の画家の原風景―』展示説明会（スライドレクチャー）

第1回	8月2日(火)	午後1時30分から	講師　村上博哉	聴講者数147名
第2回	8月2日(火)	午後2時45分から	講師　村上博哉	聴講者数 60名
第3回	8月10日(水)	午後1時30分から	講師　村上博哉	聴講者数200名
第4回	8月10日(水)	午後2時45分から	講師　村上博哉	聴講者数 60名
第5回	9月1日(木)	午後1時30分から	講師　村上博哉	聴講者数 65名
第6回	9月1日(木)	午後2時45分から	講師　村上博哉	聴講者数 23名
第7回	9月6日(火)	午後1時30分から	講師　藤島美菜	聴講者数110名
第8回	9月6日(火)	午後2時45分から	講師　村上博哉	聴講者数 51名

・『愛知県美術館開館50周年記念展　コレクションでたどる美術館50年の歩み』
展示説明会　全14回――学芸員お薦めのこの一点――　（各30分程度）

第1回　10月8日(土)　午前11時から
講師　高橋秀治　ジム・ダイン《芝刈機》　聴講者数14名

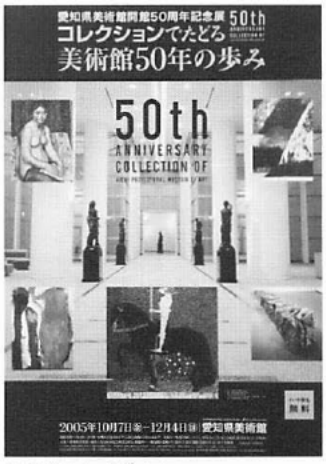
第2回　10月9日(日)　午前11時から
講師　村田真宏　菱田春草《紅葉山水》　聴講者数13名

第3回　10月15日(土)　午前11時から
講師　深山孝彰　オーギュスト・ロダン《歩く人》　聴講者数20名

第4回　10月16日(日)　午前11時から
講師　木本文平　藤井達吉《扇面流し屏風》　聴講者数25名

第5回　10月22日(土)　午前11時から
講師　藤島美菜（代：古田浩俊）
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー《グラスのある静物》
聴講者数13名

第６回　10月23日（日）　午前11時から
　　講師　牧野研一郎　古賀春江《夏山》　聴講者数15名
第７回　10月29日（土）　午前11時から
　　講師　長屋菜津子　杉本健吉《火牛下図》　聴講者数21名
第８回　10月30日（日）　午前11時から
　　講師　拝戸雅彦　戸谷成雄《双影体Ⅱ》　聴講者数15名
第９回　11月５日（土）　午前11時から
　　講師　鯨井秀伸　梅原龍三郎《横臥裸婦》　聴講者数21名
第10回　11月６日（日）　午前11時から
　　講師　森美樹　アンリ・マティス《待つ》　聴講者数16名
第11回　11月12日（土）　午前11時から
　　講師　市川政憲　桑山忠明《茶白青》　聴講者数31名
第12回　11月13日（日）　午前11時から
　　講師　馬渕美帆　橋本雅邦《秋景山水》　聴講者数17名
第13回　11月19日（土）　午前11時から
　　講師　村上博哉　ピエール・ボナール《にぎやかな風景》　聴講者数13名
第14回　11月20日（日）　午前11時から
　　講師　古田浩俊　アド・ラインハート《No.114》　聴講者数15名



50年展シンポジウム

・『生誕100年記念　吉原治良展』展示説明会

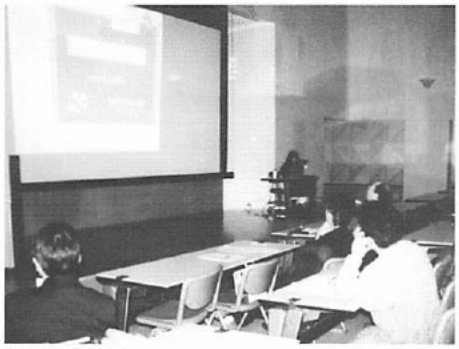
第１回	１月15日（日）	午前11時から	講師　拝戸雅彦	聴講者数21名
第２回	１月28日（土）	午前11時から	講師　拝戸雅彦	聴講者数17名
第３回	２月12日（日）	午前11時から	講師　森美樹	聴講者数15名
第４回	２月19日（日）	午前11時から	講師　森美樹	聴講者数23名

・『木村定三コレクションの江戸絵画―小世界を愉しむ―』展示説明会

第１回	３月31日（金）	午前11時から	講師　馬渕美帆	聴講者数16名
第２回	４月15日（土）	午前11時から	講師　村田真宏	聴講者数16名
第３回	４月20日（木）	午前11時から	講師　村田真宏	聴講者数13名
第４回	４月29日（土）	午前11時から	講師　深山孝彰	聴講者数21名
第５回	５月７日（日）	午前11時から	講師　馬渕美帆	聴講者数12名
第６回	５月19日（金）	午前11時から	講師　深山孝彰	聴講者数32名

各種プログラム

小・中・高の先生方との鑑賞学習交流会


鑑賞学習交流会

対象：小学校・中学校・高校の教師

企画展ごとに展覧会担当者による企画展説明会を行なうと同時に、美術館や学校での鑑賞教育について、アンケートの実施、実践発表、鑑賞会見学会などを通して、意見交換した。また、展覧会カタログのバックナンバーを参加者の学校図書館へ寄贈を行ない、多数の参加者があった。

・『アジアの潜在力－海と島が育んだ美術』展　6月4日(土)　午後3時から
　参加者数22名
・『ゴッホ展―孤高の画家の原風景―』　参加者数64名
・『愛知県美術館開館50周年記念展　コレクションでたどる美術館50年の歩み』
　参加者数29名
・『生誕100年記念　吉原治良展』　参加者数51名
・『木村定三コレクションの江戸絵画―小世界を愉しむ―』　参加者数34名

児童、生徒を対象としたプログラム

・夏休み子ども鑑賞会

対象：小学生、中学生

担当学芸員：藤島美菜、深山孝彰

学年別の7～8人の小グループで、所蔵作品展と企画展「ゴッホ展」を学芸員や学生の導きで鑑賞した。鑑賞補助資料として、アートカードや子供向けガイドを作成し、それらを使用しながら実作品を前に互いの意見や感想を述べ合った。

開催日		対象	参加者数
7月28日(木)	午前10時から	小学校1－2年生	18名
	午後2時30分から	中学生	23名
8月3日(水)	午前10時から	小学校3－4年生	14名
	午後2時30分から	中学生	19名
8月5日(金)	午前10時から	小学校3－4年生	20名
8月11日(木)	午前10時から	小学校5－6年生	18名
	午後2時30分から	中学生	27名
8月18日(木)	午前10時から	小学校3－4年生	18名
8月19日(金)	午前10時から	小学校1－2年生	20名
	午後2時30分から	小学校5－6年生	18名

・親子イベント


ゴッホ展親子ワークショップ

対象：親子

担当学芸員：森美樹

参加家族を6グループに分け、学生ボランティアの案内係とともに、ゴッホの人物像や補色の効果などに注目して作品を鑑賞し、パズルゲームを行った。作品鑑賞後、ゴッホの《ひまわり》にちなみ、ひまわりをモチーフに夏休みの思い出を込めた作品を、家族の共同作業によって制作した。

8月8日(月)　午後1時30分から（ゴッホ展親子鑑賞会）
　午後2時30分から（ワークショップ）　参加者数74名

視覚に障害のある方へのプログラム

例年は２日間を午前午後に分けた４回のプログラムと、夏休みに盲学校生を対象とした１日２回の鑑賞会を行っている。2005年度は夏休み期間に当たった「ゴッホ展」の休館日を利用した特別鑑賞会と、恒例のプログラムを各１日計４回開催した。また、中学校の総合学習を受け入れ指導した。実施には「名古屋 YWCA 美術ガイドボランティアグループ」と点訳ボランティア「六点会」の協力を得た。

担当学芸員：深山孝彰

・「ゴッホ展」特別鑑賞会

2005年８月22日(月)　　午前30名、午後29名

ゴッホの作品７点の解説（点字と大文字）と立体コピー及び《ひまわり》の一部の油彩模写を作成。またゴッホの《自画像》理解のため油彩用パレットと筆を用意して参加者にゴッホと同じポーズをとってもらった。参加者多数のため、ガイドには「愛知県美術館友の会」の有志が加わった。

・プログラム（全館所蔵作品展「愛知県美術館50年のあゆみ」開催時）

2005年10月20日(木)　　午前８名、午後15名

・中学生の総合学習受入れ指導

2005年11月９日(水)　　小牧市立桃陵中学校１年生116名

アートスペースＡで講義後、生徒たちが６グループに分かれ、展示室で６人の視覚障害者に絵の説明をした。


視覚に障害のある方へのプログラム

団体鑑賞の対応

事前の申し込みのあった場合、事情の許す限り各種団体に対して学芸員が展示解説や美術館利用の美術館利用のガイダンス等を行なっている。毎年繰り返し来館する学校数が増えている。時期としては年度の終わりの３ヶ月間に集中する傾向がある。

	小学校	中学校	養護学校	高校	大学	専門学校	一般	計
来館団体件数	19	51	2	6	2	3	33	116
上記の内学芸員が対応（ギャラリー・トーク）した団体数(のべ人数)	8 (607)	7 (227)	2 (33)	0	2 (127)	1 (30)	10 (205)	30 (1229)

博物館実習等

博物館学芸員資格取得のための実習を希望者の中から選抜して受入れを行なっている。本年度は８大学９名を受け入れた。

実習期間　2005（平成17）年８月１日～５日（５日間）

また、これとは別に長期にわたって定期的（１週間に１度を基本）に大学院生を中心に美術館研修生として受入れを行なっている。本年度は１大学の院生５名を受け入れた。研修生は主に藤井達吉コレクションや木村定三コレクションの資料整備、企画展に関わる実務、教育普及事業の実務に従事した。

研修期間　2005年（平成17）年６月１日～2006年３月31日

友の会活動への運営協力

友の会会員のための特別鑑賞会

閉館後や平日の他の観覧者が少ない時間帯に会員向けの鑑賞会を開催し、各企画展担当学芸員が全体レクチャーのあと展示室でのギャラリー・トークを行なっている。


特別鑑賞会

・『アジアの潜在力－海と島が育んだ美術』展

5月26日(木)　午後5時30分から　講師：市川政憲　参加者数30名

6月2日(木)　午前10時30分から　講師：市川政憲　参加者数7名

・『ゴッホ展—孤高の画家の原風景—』

8月4日(木)　午後5時30分から　講師：村上博哉　参加者数60名

8月8日(月)　午前10時30分から　講師：村上博哉　参加者数61名

・『愛知県美術館開館50周年記念展　コレクションでたどる美術館50年の歩み』

10月20日(木)　午後5時30分から　講師：村田真宏　参加者数62名

・『生誕100年記念　吉原治良展』

1月12日(木)　午後5時30分から　講師：森美樹　参加者数30名

1月19日(木)　午前10時から　講師：森美樹　参加者数31名

・『木村定三コレクションの江戸絵画—小世界を愉しむ—』展

3月16日(木)　午後5時30分から　講師：馬渕美帆　参加者数27名

3月23日(木)　午前10時30分から　講師：馬渕美帆　参加者数20名

その他

・会員向け講座

演題　「ラスコーの洞窟を訪ねて」

講師　市川政憲

1月14日(土)　午後2時から　参加者数41名

対談　馬場駿吉（美術評論家）＆市川政憲

2月11日(土)　午後2時から　参加者数42名

演題「美術館を知る　第2回バックヤードツアー」

2月16日(木)　午前11時から／午後2時から　参加者数　11名／13名

2月24日(金)　午後2時から／午後6時30分から　参加者数　11名／8名


馬場駿吉氏＆市川政憲館長

・主な催し

バリ・ガムランの響き

6月12日(日)　午後4時から

出演者　SUARA　SUKMA（バリ・ガムラングループ）、
　　SEKAR　SARI（バリ舞踊）

参加者数計　274名

シャンソンの夕べ「夜のカフェテラス」

8月5日／12日／19日／26日（いずれも金曜日）

1部　19時から／2部　20時から（入替なし）

出演者　西みほ（歌）、太田邦夫（ピアノ）

参加者数各日計　40名／80名／100名／100名

・支援事業

企画展支援：企画展ごとに支援金を実行委員会に提供

・広報事業

企画展ポスター、チラシ等の宣伝材料の配布

会報『空中回廊』No.21（2005年8月）、No.22（2006年3月）の発行

・サポート活動

展示保存用備品の制作

企画展終了後のアンケート集計作業

資料発送業務

各種鑑賞会・講座・イベント等の準備、受付



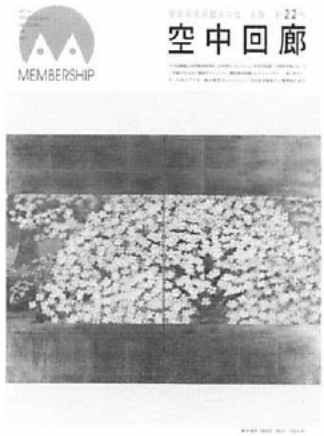
バリ・ガムランの響き



シャンソンの夕べ



空中回廊　No.21



空中回廊　No.22

調査研究

美術館活動に則した調査研究の実施状況

・市川政憲　「海から川へ」「章解説：Ⅰ彫る、Ⅱ染める、Ⅲ型取る、肉づける」「作家解説」〔７作家〕『アジアの潜在力』展図録（平成17年５月）

・村田真宏　「作家解説〔８作家〕」『アジアの潜在力』展図録（平成17年５月）
「杉本健吉寄贈作品の概要」『愛知県美術館研究紀要』第12号（平成18年３月）
「移動美術館開催報告」『大口町歴史民俗資料館研究紀要Ⅲ』（平成18年３月）

・高橋秀治　「作家解説〔７作家〕」『アジアの潜在力』展図録（平成17年５月）

・村上博哉　「章解説：Ⅴ.サン=レミ、オーヴェール=シュル=オワーズ」「作品解説〔cat.nos.104-127〕」『ゴッホ展』図録（平成17年３月）

・鯨井秀伸　「『蛾の踊り』イメジャリー試論」『愛知県美術館研究紀要』第12号（平成18年３月）

・深山孝彰　「藤城凡子と私たちの宇宙」「テーマ展　藤城凡子「ラブレター」」（平成17年12月）
美術館・博物館事業レポート「愛知県美術館視覚に障害のある方へのプログラム」『文化庁月報』№447（平成17年12月）
「視覚障害者の美術鑑賞ガイド実践例から
―絵画鑑賞における立体コピーの使用方法について」『愛知県美術館研究紀要』第12号（平成18年３月）

・拝戸雅彦　「作家解説〔10作家〕」『アジアの潜在力』展図録（平成17年５月）
「吉原治良―マティエール・平面化・円・美術史」、「章解説：第６章「円」とその後：1963-1972」『吉原治良展』図録（平成17年10月）

・長屋菜津子　「口頭発表『東海地震と東南海地震予知情報に対する愛知県美術館の取り組み』」愛知県博物館協会　博物館等職員研修会（平成17年11月16日、愛知芸術文化センター）
「共同研究（虫菌害対策）『学芸員による学芸員のための むし・かび対策ノート』」全国美術館会議 保存研究部会 虫菌害対策班〔田中善明・田村哲・長屋菜津子・宮衛〕（平成18　年３月31日）

・藤島美菜　「章解説：Ⅱ.農民の労働、芸術のメタファー」「作品解説〔cat.nos.22-34〕」「フィンセント・ファン・ゴッホ年譜」「主要参考文献」『ゴッホ展』図録（平成17年３月）

・馬渕美帆　「章解説：江戸とその周辺、名古屋、上方、博多」「作家・作品解説〔全作品cat.nos.1-116〕」『江戸絵画　木村定三コレクション』図録（平成17年３月）
「『自然をめぐる千年の旅―山水から風景へ―』展を開催して」『美術年鑑』平成18年版（平成18年１月）

・森　美樹　「章解説・作品解説：第５章　具体の誕生、アンフォルメルの時代へ1954-1962」「出品目録」『吉原治良展』図録（平成17年10月）

その他

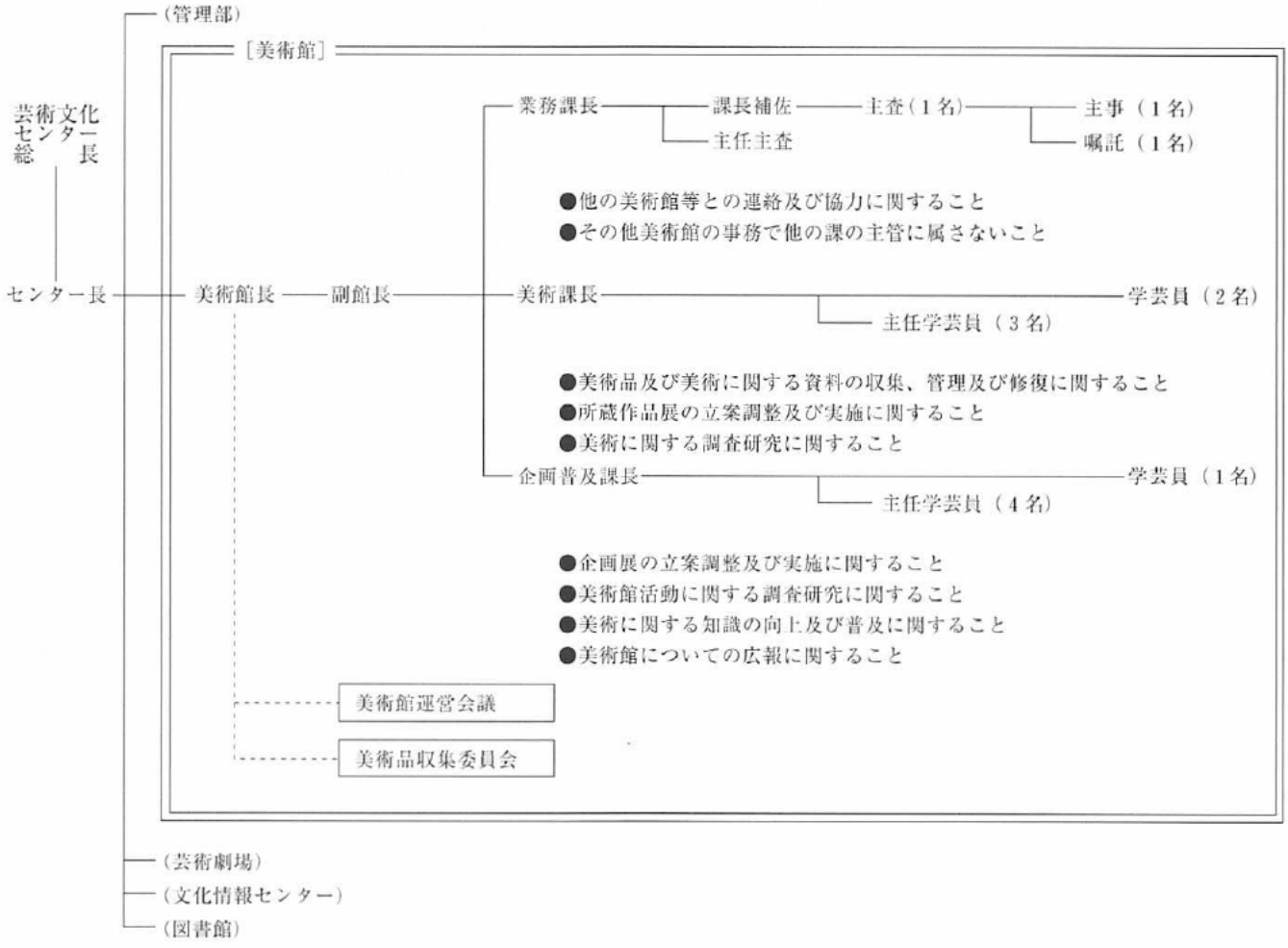
・木本文平　「芝川コレクションと藤井達吉」『幻想のコレクション　芝川照吉』渋谷区立松濤美術館（平成17年12月）
「生きることは描くこと　生誕100年杉本健吉物語」１～17『中日新聞』木曜夕刊連載（平成17年11月17日～平成18年３月30日、18年度も継続中）

・拝戸雅彦　批評「ロバート・モリス　鏡と目を隠すこと―視線の消滅」『リア』no.10（平成17年６月）
展評「栗本百合子展 " The hothouse" 2005」『リア』no.11（平成17年９月）
展評「ベリーベリーヒューマン」『リア』no.12（平成17年12月）

・馬渕美帆　鹿島美術財団「美術に関する調査研究の助成」研究「『見立て絵』の記号論的研究」（平成17年３月）

組織および職員構成

1．組織図



2．愛知県美術館職員名簿（2006年3月）

館長	市川政憲
副館長	牧野研一郎
業務課長	清水和彦
課長補佐	奥村　正
主任主査	石黒初美
主査	岩田三千代
主事	石黒康二
嘱託	森　明美
美術課長	村田真宏
主任学芸員	古田浩俊
〃	鯨井秀伸
〃	長屋菜津子
技師（学芸員）	馬渕美帆
〃	森　美樹
企画普及課長	木本文平
主任学芸員	高橋秀治
〃	村上博哉
〃	深山孝彰
〃	拝戸雅彦
技師（学芸員）	藤島美菜

関係委員会名簿(2006年3月、50音順)

愛知県美術館運営会議委員名簿

	氏　名	職　名(所　属)
	浅　野　　徹	名古屋芸術大学教授
○	江　本　菜穂子	名古屋造形芸術大学教授
◎	島　田　章　三	愛知県立芸術大学長
	鷲　見　　卓	中日新聞事業局文化事業部長
	建　畠　　哲	独立行政法人国立美術館 国立国際美術館長
	鶴　田　善　久	名古屋市立左京山中学校校長
	野々川　房　子	日本メナード化粧品(株)常務取締役 メナード美術館アート・プロデューサー
	三　浦　定　俊	独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所企画情報部部長
	宮　崎　玲　子	愛知県美術館友の会会長
	渡　辺　豊　彦	名古屋市美術館長

◎は会長　○は会長職務代理　(50音順)

愛知県美術館美術品収集委員会委員名簿

	氏　名	職　名(所属・専門分野)
	浅　野　　徹	名古屋芸術大学教授 (日本近代美術史)
	尾　崎　正　明	独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館副館長 (日本近代美術史)
◎	黒　田　亮　子	美術評論家 (西洋近代美術史)
○	山　梨　俊　夫	神奈川県立近代美術館館長 (近代美術史)
	吉　田　俊　英	奈良県立美術館副館長兼学芸課長 (日本近世・近代美術史)

◎は委員長　○は委員長職務代理　(50音順)

愛知県美術館年報 2005 年度版
研究紀要第13号　2007 年 3 月発行
編集　愛知県美術館　拝戸雅彦　松山ひとみ
発行　愛知県美術館
名古屋市東区東桜1-13-2　〒461-8525
PHONE：052-971-5511
FAX　：052-971-5604
印　刷　長苗印刷株式会社

2005 Annual Report, Aichi Prefectural Museum of Art
Bulletin of Aichi Prefectural Museum of Art. Vol.13
Edited by
Aichi Prefectural Museum of Art HAITO Masahiko MATSUYAMA Hitomi
Published by
Aichi Prefectural Museum of Art
1-13-2 Higashisakura Higashiku,
Nagoya, 461-8525, Japan
Printed by
Naganae Printing
©2007
Printed in Japan